

荒川区就学前教育プログラム

わくわく えがお 荒川の子



平成28年3月

荒川区

はじめに

未来社会の守護者であり、明日の荒川区を支える貴重な宝である子どもたち一人一人が、健やかで心豊かに成長することは、親の願いであり、区民の願いでもあります。

私は、「子どもの最善の利益」の実現を目指し、その笑顔でいっぱいの子育てのまちになるよう、就任以来、すくすくサポート事業の充実やあらかわキッズ・マザーズコール24の実施、絵本を活用した読書活動の推進、待機児童対策や子どもの貧困対策、放課後子ども総合プランの実施や区立小中学校全校へのタブレットパソコンの配備など、子育て・教育分野における施策の充実に積極的に取り組んでまいりました。

特に乳幼児期は、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる大変重要な時期であります。私は、荒川区の子どもたちが、未来を拓き、たくましく生きる力の基礎を身に付けられるよう、子どもの発達過程に応じた保育・教育を提供し、子ども一人一人の可能性を伸ばし、豊かな創造力を育てていく考えであります。

区ではこれまでも、保育園・幼稚園・こども園と小学校との様々な交流活動を推進してまいりましたが、いわゆる「小1プロブレム」に対応するため、幼児と児童の交流の機会をさらに増やすなど、相互理解を深める具体的な取組を実施することで、園と小学校がより一層連携し、小学校への円滑な接続を図っていく必要があると考えております。

そのため、今回、本プログラムの策定にあたりましては、子育て支援部と教育委員会が連携し、保育・教育現場の最前線で活躍する小学校長や公私立幼稚園・保育園・こども園の園長・副園長、認証保育所代表など、組織や施設の枠を超えて様々な方にご参加いただき、乳児グループ、幼児グループ、保・幼・小連携グループの3つのグループに分かれて議論を重ねてまいりました。

本プログラムは、保育・教育内容のより一層の充実を図り、保育・教育施設が互いに理解を深め、質を高め合う取組を推進していくことができるよう、就学前教育に関わる区内全ての保育者と小学校に配布し、定期的な研修などの実施を通して共通理解を深めるとともに、ご家庭で育児をされている保護者が子育ての参考として手に取って活用できるようにしていきたいと考えております。本プログラムが、全ての保育者・保護者の皆様にとりまして、就学前教育の良き指針となるとともに、小学校教育の一層の充実に資することを願っております。

区といたしましては、子育て世代が安心して子どもを産み育てられるまち「幸せ子育て荒川区」を実現するため、これまで以上に乳幼児期の保育・教育の充実に取り組んでまいり所存です。

最後に、策定にあたりまして、貴重なご助言をいただきました師岡章先生をはじめ、ご協力をいただきました検討メンバーの皆様に厚く御礼を申し上げます。

平成28年3月

荒川区長 特別区長会会長

西川 太一郎



荒川区就学前教育プログラム 『わくわく えがお 荒川の子』の活用を願う

荒川区の全ての園、そして小学校は、子どもの健全育成を願い、保育・教育に真摯に取り組んでいます。

そのうち、就学前教育を担う保育園・幼稚園・こども園は、平成27年3月に策定された「荒川区子ども・子育て支援計画」に示された基本理念「みんなで支え合い 未来への夢と希望に満ちあふれた 子どもたちの笑顔でいっぱいのもち あらかわ」に基づき、その取り組みをより充実させつつあるところです。

また、小学校以上の学校教育も、現在、策定中である「荒川区教育に関する大綱(素案)」において、全ての区民を対象とした生涯教育と連動した取り組みとして再構築されつつあります。

こうした動向を踏まえ、この度、荒川区は就学前教育の充実を図るため、制度的に学校である幼稚園だけではなく、児童福祉施設である保育園などの保育施設も含めて、「就学前教育プログラム」を策定しました。また、いわゆる「小1プロブレム」や「学級崩壊」など、就学を機に生ずる問題を改善するため、小学校も視野に入れ、「就学前教育プログラム」の検討を行いました。この『わくわく えがお 荒川の子』はその成果です。

巷には、いまだ、保育と幼児教育、また公立と私立、さらに園と小学校などを区別するまなざしも見られます。もちろん、制度的には、それぞれ担うべき機能や役割が異なりますから、そうした見方もあながち間違いではないでしょう。ただ、それぞれの場で生き、育とうとしている子どもには、なんら違いはありません。だとすれば、子どもたちを育てる営みは、常に一貫性を重視し、その充実を図らねばなりません。

本プログラムは、こうした要請に十分に応えうる内容となっています。本プログラムが、小学校教育を視野に入れた就学前教育の充実、また、就学前教育を視野に入れた小学校教育の充実の双方につながることを期待しております。それは、平成27年2月の第1回目の全体会議から、本プログラムの策定にかかわった全委員の願いでもあるはずです。様々な保育・教育の場で活用され、園や小学校の実践の質的向上、そして保育者・教員の資質向上にも役立つことを願っております。

平成28年3月

荒川区就学前教育プログラム検討会 監修アドバイザー

白梅学園大学子ども学部 教授

師岡 章



目次

はじめに	1
目次	3
I 荒川区就学前教育プログラムの策定にあたって	4
1 荒川区における就学前教育の現状と課題	4
2 本プログラムの基本的な考え方	4
3 本プログラムの活用の仕方・用語の定義について	7
II 荒川区の就学前教育の理念と目指す子ども像	8
就学前教育カリキュラムの発達区分と「経験する内容」の視点について	10
III 就学前教育カリキュラム（子どもの発達と確実に経験させたい内容）	11
◇ おおむね6か月未満 ごっくん ねんね いいきもち	12
◇ おおむね6か月～1歳3か月未満 お座りから…はじめの一步、世界が広がる！	18
◇ おおむね1歳3か月～2歳未満 これなあに これやる～	24
◇ 2歳児 みてみて できたよ！	30
◇ 3歳児 だって、自分でできるもん！	38
◇ 4歳児 一緒にやってみよう！おもしろくなるよ	52
◇ 5歳児 自分が好き 友達が好き！仲間と一緒に育ち合い	66
IV 接続期カリキュラム（園から小学校への円滑な接続のために）	81
1 接続期カリキュラムの作成について	82
2 「幼児期と児童期の教育」から見えるつながり	83
3 「学びの芽生え」から「自覚的な学び」への円滑な移行	84
4 幼児期から児童期への接続を見据えた保育・教育課程や指導計画作成の視点	84
5 接続期の捉え方について	85
6 1～5の事項を踏まえて	86
荒川区の目指す接続期（5歳児後半）の幼児の姿	88
荒川区の目指す接続期（1年生1学期）の児童の姿	89
接続期に育てたい姿	90
園と家庭及び地域社会との連携・協力	96
園と小学校との連携・交流活動事例	98
V 荒川区の重点的な取組	109
◇ 絵本の活用—絵本のカリキュラム—	111
◇ 地域との交流—交流実践事例—	114
◇ 子どもの貧困・虐待予防に関する取組	117
<資料> 荒川区就学前教育プログラム検討会名簿	120
参考文献・資料	121

I 荒川区就学前教育プログラムの策定にあたって

1 荒川区における就学前教育の現状と課題

平成28年3月現在、本区には、認可保育所37園（私立15、公設民営9、公設公営13）、認定こども園1園、区立幼稚園8園、区立こども園1園、私立幼稚園等4園があります。この他にも、東京都認証保育所や家庭福祉員（保育ママ）など、多様な保育施設があり、多くの乳幼児が在籍しています。

近年、少子化の進行とともに子どもの生活環境が大きく変化し、外遊びの機会の減少、夜型の生活リズム、電子メディアへの接触など子どもの育ちに影響する様々な問題が生じています。子育てに不安や孤立感を抱える保護者も多く、家庭の養育力の低下も指摘されています。小学校1年生の中には、入学後の教育環境の変化に適応できず、授業中に座ってられない、集団行動がとれないといった、いわゆる「小1プロブレム」も課題となっています。

本プログラム検討会の中で、保育園・幼稚園・こども園の保育者から、5歳児の育ちに関する課題として、「人の話を最後まで聞くことができない」「気持ちのコントロールができない」などが挙げられ、小学校教員からは、入学当初、小学校生活への不安から泣くなどの子どもの姿から、学力の基礎として、コミュニケーション能力を育てること（困った時にそれを伝えられる力）が課題として挙げられています。こうした中で、人格形成の基礎を培う重要な時期である乳幼児期の保育・教育の重要性が見直され、より一層の充実が求められています。

平成27年度からの「子ども・子育て支援新制度」施行に伴い、本区では「みんなで支え合い 未来への夢と希望に満ちあふれた 子どもたちの笑顔でいっぱいのもち あらかわ」という基本理念の下、「荒川区子ども・子育て支援計画」を策定しました。

この計画の中で、保育施策・子育て支援施策をさらに充実させていくこととし、待機児童の解消を目指す保育の量的拡大とともに、保育の質の向上を図っていくとしています。また、就学前教育と小学校教育との円滑な接続の取組を推進していくことを重視しています。

現在、区では多くの園と小学校が、保育体験や体験授業、学校行事への参加など、園児と児童の様々な交流を行っていますが、保育者と教員との相互交流、相互理解の機会はまだまだ多くはありません。これまで以上に連携を深め、お互いの取組を伝え合い、子どもたちの発達を長期的な視点で捉えていく必要があります。

こうしたことを踏まえ、区では、子どもたちがどのような保育施設・教育施設で育っても等しく質の高い就学前教育が受けられるよう、共通して経験させたい内容を明らかにするとともに、発達と学びの連続性を踏まえ、小学校への滑らかな接続を図るため、就学前教育の指針となる本プログラムを策定することとしました。

2 本プログラムの基本的な考え方

(1) 就学前教育の重要性とカリキュラムの具体的な展開

乳幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う最も重要な時期です。乳幼児期の保育・教育は、子どもの最善の利益の実現を目指し、子どもが「現在を最も良く生き、望ましい未来をつくり出す

力の基礎を培う」ものです。そのために、保育園や幼稚園、こども園等では、環境を通して乳幼児期にふさわしい経験が得られるようにしていくことが大切です。

子どもは、遊びや生活の中での直接的・具体的な体験を通して運動機能や知的発達、豊かな感性や社会性を身に付けていきます。

本プログラムは、「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を踏まえ、これまで荒川区の保育者が築きあげてきた各園の保育・教育の蓄積を生かし、より具体性をもつものとして発展させることができるよう作成したものです。

各年齢の「発達の特徴」と、それを踏まえた「保育の中で大切にしたいこと」や「経験させたい保育内容」について明らかにし、各月齢・年齢の「カリキュラム例」とともに、保育園・幼稚園・こども園での実践事例を示しています。こうした各園の実践事例等を知り、相互に学び合うことで荒川区の子どもたちの健やかな育ちにつながると考えます。

(2) 発達と学びの連続性を考慮した就学前教育の充実

本プログラムでは、子どもの発達過程とその連続性を踏まえ、就学前教育を0歳児から就学までの一貫したものとして捉えます。

乳幼児期の就学前教育は、小学校の学習内容や知識を先取りして教えるということではありません。自発的な活動としての遊びを中心とした生活の中で、自然や社会事象などと直接出会い、環境との関わりを通して発達に必要な経験を自ら得ていくことを援助する営みです。

子どもは、友達と関わりながらいろいろな遊びや活動に取り組む中で自己を発揮し、集中力や意欲、社会性など様々な力を獲得し自己実現を遂げていきます。諸感覚を働かせて多様な活動をする経験が積み重なっていく中で、豊かな感性や好奇心、探究心や思考力が培われます。まさしく、「遊びを通した学びの芽生え」が、小学校以降の学びの基盤となっていくのです。

これらのことを踏まえ、子どもの特性及び発達と学びの連続性に配慮した、各年齢にふさわしい「共通して経験させたい内容」を明らかにすることで就学前教育の充実を図るものです。

(3) 園・小の連携と小学校への滑らかな接続

保育園・幼稚園・こども園等の「遊びや生活の中での学び」と、小学校の「学習」とでは、様々な面で違いがあります。遊びが中心の園生活から、学習が中心の学校生活になります。学習スタイルの違いだけでなく、チャイムで時間が区切られていることなど、生活スタイルにも違いがあります。これらの変化への戸惑いが、いわゆる「小1プロブレム」につながっているという指摘もあります。保育園・幼稚園・こども園等から小学校へ滑らかに接続するために、園では小学校入学後の生活を見通してその時期にふさわしい経験ができるように、また、小学校では園での経験を踏まえた指導ができるように工夫することが重要になっています。そのために、保育者と小学校の教員との相互理解による連携・交流が必要です。

本プログラムでは、保育者が小学校入学後の生活を見通し、また、小学校の教員が就学前の子どもの育ちを理解することができるように、5歳児後半（10月～3月）から小学1年生1学期を接続期と捉えて「接続期カリキュラム」を明らかにしました。

(4) 家庭との連携・保護者支援の推進

子どものよりよい育ちにとって、家庭との連携は特に重要です。子どもの貧困や虐待予防の観点

からも、保護者の子育てへの不安や負担、孤立感を和らげることで親としての成長を支え、子育てに喜びを感じることができる支援が必要です。

本プログラムでは、家庭との連携を具体的に示すことで、親育ち・保護者支援に資することを目指しています。

(5) 荒川区の重点的な取組

本区の保育・教育の中で、地域特性を生かした取組や特に大切にしたい視点を「重点的な取組」として、巻末に資料・事例を記載しました。

① 絵本の活用—絵本のカリキュラム—

本区では、「荒川区子ども読書活動推進計画」(第二次・平成23年)を策定し、計画的に保育園・幼稚園における絵本の蔵書の整備・拡充を図ってきました。小学校においては、子どもたちの主体的・意欲的な読書活動や学習活動を支援するため、学校図書館の蔵書や施設、設備などの充実を図るとともに、「荒川区学校図書館活用指針」(平成26年)を策定し、学校図書館を活用した教育を重点的に進めています。

こうした取組を視野に入れ、就学前教育の中で絵本を重要なものと位置づけ、保育・教育活動に活用できるよう、発達過程に沿った絵本を選定し「絵本のカリキュラム」として一覧にしました。併せて、各月齢・年齢の「カリキュラム例」にも「遊び・教材」とともに「絵本」の欄を設け記載しています。

② 地域との交流

地域の人たちとふれあう体験は、子どもたちの成長にとって欠かせないものです。地域の高齢者施設を訪問したり、地域の行事に参加したり、中学生や地域の人々が園を訪れたりなど、様々な世代の人たちと交流する機会は、子どもたちが豊かな心を育むための重要な環境です。本区は、下町ならではの人と人とのつながりがあり、お祭りなど地域行事もさかんです。こうした地域の特色を活かし、地域の財産を園の保育・教育活動に積極的に取り入れていくことで、子どもたちの生活経験を豊かにしていくことが大切です。地域交流の実践事例を載せ、各園での取組の参考となるようにしました。

③ 子どもの貧困・虐待予防

「平成25年国民生活基礎調査」(厚生労働省)によれば、子どもの貧困率は16.3%という高さで、約6人に1人が貧困におかれています。ひとり親世帯の貧困率は54.6%とさらに深刻な数字です。区では平成22年から「子どもの貧困」問題の調査・研究に取り組んできました。

子どもと日常的に接する場である保育園・幼稚園・こども園等就学前教育施設や学校は、子どもの変化や保護者の抱える問題を発見しやすく、子どもの貧困を早期発見・早期支援するための役割が期待されています。また、子どもに関する専門性をもつ人的資源が揃っていることにより、子どもたちの最初の「貧困の防波堤」であると言えます。

児童虐待もその件数は増え続けています。就学前教育施設や学校には、日頃から問題を抱える親子への支援を図り、関係機関と連携しながら予防的な取組を行うことが求められています。

そのための活用資料として、区としての「子どもの貧困に関する取組」「虐待発見のポイント」「虐待対応のフローチャート」を掲載しました。

3 本プログラムの活用の仕方

各園では、それぞれの園の沿革や理念、保育・教育方針、地域の特性などを踏まえた独自の保育課程や教育課程、指導計画を作成しています。園の規模や対象年齢も違えば、保育の形態や方法も様々です。

各園の独自性を大切にしながら、荒川区の子どもたちが、その年齢にふさわしい多様で豊かな経験を積み重ね、等しく質の高い就学前教育を保障されるよう、本プログラムを活用して各園の保育課程や教育課程、指導計画を作成してください。また、区内の全ての保育園・幼稚園・こども園と小学校との連携や滑らかな接続に向けての取組を進めるために活用してください。

本冊子は、保育者と小学校の教員を対象に作成しましたが、子どもに関わるすべての人々に活用されることを願っています。

用語の定義について

「荒川区就学前教育プログラム」において使用する用語の定義については、次のとおりとします。

- 就学前教育・・・小学校就学を視野に入れた乳幼児期の子どもの健全育成を図る取組の総称
- 保育・教育・・・学校教育法及び児童福祉法に基づく、保育園・幼稚園・認定こども園・こども園及び関連する保育施設における取組の総称
- 園・・・乳幼児期における保育・教育を行う施設の総称
- 子ども・・・乳児、幼児、児童を含めた総称
- 乳児・・・0歳児から満3歳未満児までの子ども
- 幼児・・・3歳児から小学校就学の始期に達するまでの子ども
- 児童・・・小学生
- 保育者・・・保育園・幼稚園・認定こども園・こども園及び関連する保育施設において保育・教育を行う者の総称
- 教員・・・小学校の教員を指す

Ⅱ 荒川区の就学前教育の理念と目指す子ども像

「荒川区子ども・子育て支援計画」（平成27年3月策定）に示されているように、子どもは未来社会の守護者であり、明日の荒川区を支える貴重な宝です。

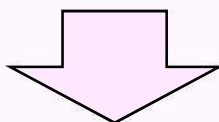
その子ども一人一人が健やかで心豊かに成長することは、親の願いであり、区民の願いでもあります。子どもの最善の利益の実現を目指し、地域全体で子どもの成長を見守るとともに、保護者が子育てに喜びを感じられるようにと、基本理念を次のように定めています。

みんなで支え合い 未来への夢と希望に満ちあふれた
子どもたちの笑顔でいっぱいのもち あらかわ

この「荒川区子ども・子育て支援計画」の基本理念を踏まえ、荒川区の保育理念や教育ビジョンに基づいて、荒川区の就学前教育の理念と、目指す子ども像を次のように決めました。

荒川区の就学前教育の理念

人間尊重の精神に基づき、乳幼児期にふさわしい多様で豊かな生活経験を積み重ねる中で、一人一人のよさと可能性を伸ばし、生涯にわたり「心豊かにたくましく生きる力」の基礎を培います。

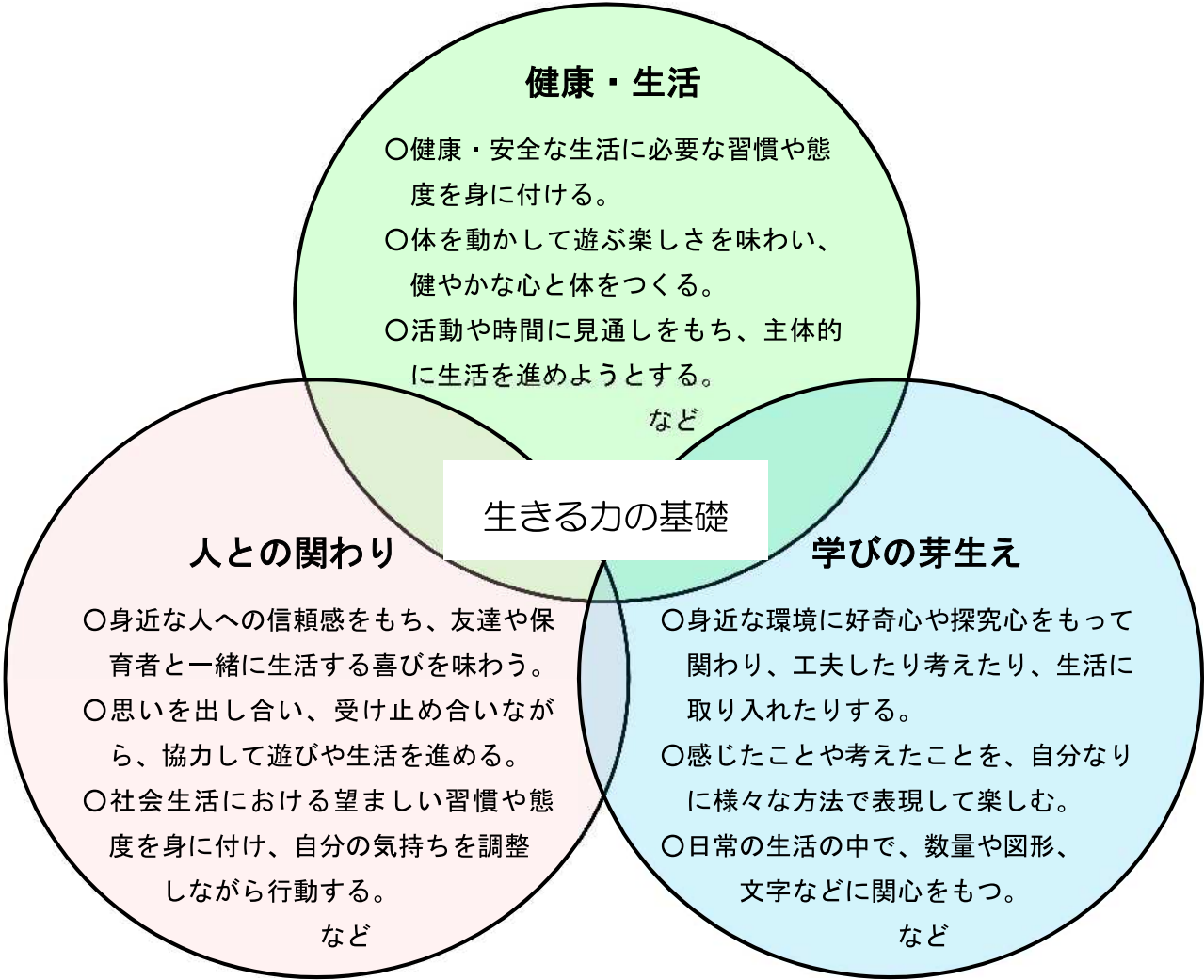


目指す子ども像

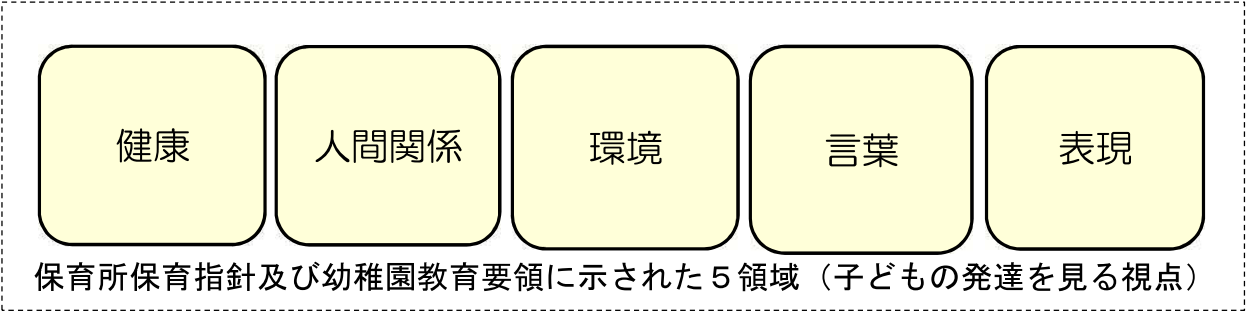
- 健やかな体、豊かな心をもつ子ども
- 人も自分も大切にできる子ども
- 感性豊かで創造性にあふれる子ども

目指す子ども像

- 健やかな体、豊かな心をもつ子ども
- 人も自分も大切にできる子ども
- 感性豊かで創造性にあふれる子ども



乳幼児期の子どもの発達に応じて確実に経験させたい内容の視点



【就学前教育カリキュラムの発達区分と「経験する内容」の視点について】

本プログラムの中心部分となる「就学前教育カリキュラム」「接続期カリキュラム」は、区の子どもの実態や保育園・幼稚園・こども園・小学校の実践をもとに、保育者・小学校教員が検討を重ね、作成したものです。「就学前教育カリキュラム」は、乳幼児期の子どもたちに生きる力の基礎を培うために、発達や学びの連続性を踏まえ、0歳児から5歳児までの発達の特徴とそれに応じて確実に経験させたい内容を示すとともに各園の具体的な実践事例を示したもので、各園で編成する「保育課程」や「教育課程」に相当するものです。

① 発達区分と期の分け方について

子どもの発達過程の区分については、保育所保育指針を参考にしました。0歳児・1歳児は、「おおむね6か月未満」、「おおむね6か月から1歳3か月未満」、「1歳3か月から2歳未満」とし、乳児は発達の個人差が大きいことを考慮し、さらに細かい「月齢ごとの区分」でカリキュラムを作成しています。

2歳児以上は、クラスの年齢で区分し、カリキュラムは発達の時期を捉えた「期ごとの区分」になっています。2歳児は4期に、3歳以上児は5期に分かれています。

また、異年齢保育（3・4・5歳児）として「夏季保育」の計画と実践事例も示しました。

② 5領域と「経験する内容」の3つの視点との関係

9ページの図に示した通り、「就学前教育カリキュラム」では、経験する内容（＝子どもの発達に応じて確実に経験させたい内容）を、「健康・生活」「人との関わり」「学びの芽生え」の3つの視点で捉えました。「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5領域は、「幼児の発達の側面からまとめたもの」（幼稚園教育要領解説）であり、「子どもの発達を捉える視点」（保育所保育指針解説書）です。「幼児の育ちは文字通り『まるごと』のものであり、その内部を分けて考えることはできない。しかし、発達の側面をしっかりと捉える分析的な視点も必要であり、それを示したものが5領域である」（岸井勇雄『改訂幼稚園教育要領の展開』）。つまり、5領域は「子どもの発達を見る視点」であるということです。

5領域は、特定の活動と結び付けて指導されるものではなく、互いに関連し合って展開し、総合的にねらいが達成されていくものです。そうした観点から、生きる力の基礎を培うために子どもに経験させたい内容を「健康・生活」「人との関わり」「学びの芽生え」として設定しました。

また、養護的側面と教育的側面も切り離せるものではありません。本カリキュラムでは、養護と教育が一体的に展開されるように工夫しました。

なお、「保育所保育指針解説書」では、保育課程編成の留意事項として「3歳未満児は、この時期の発達の特徴から見て各領域を明確に区分することが難しいことや、個人差が大きいことから、工夫してねらいや内容を組織することが求められます」と示されています。そのため、「学びの芽生え」を乳児では、「遊び」として緩やかに設定しました。（もちろん、0歳児の時期から子どもは、遊びを通して様々な感覚を働かせ、学びを得ていることは言うまでもありません）

また、各年齢（月齢）の「発達の特徴」を踏まえた保育の重点を、幼児では「経験させたい保育内容」として示しているのに対し、乳児では「保育の中で大切にしたいこと」として保育者側からの関わりのポイントを示しています。これも、乳児の発達の特性に応じて愛情豊かな保育者の養護的関わりや援助が特に重要であるからです。

Ⅲ 就学前教育カリキュラム

(子どもの発達と確実に経験させたい内容)

おおむね6か月未満

ごっくん ねんね いいきもち

1 発達の特徴

【運動感覚機能の著しい発達】

子どもはこの時期、身長や体重が増加し著しい発育・発達がみられる。まさに一個の生命体として発達の可能性に満ちているといえる。

運動面に目を向けると生後4か月までに首が座り、5か月ぐらいからは目の前の物をつかもうとする、手を口に持っていったりするなど手足の動きが活発になる。その後、寝返りできるようになったり、腹ばいになると胸を反らして顔や肩をあげ上半身の自由を利かせて遊ぶようになったりするなど、全身の動きが活発になり、自分の意思で体を動かせるようになる。

また、この時期の視覚や聴覚等の感覚の発達はめざましく、これにより自分を取り巻く世界を認知し始める。例えば生後3か月頃には周囲の人や物をじっと見たり、見回したりする。また周りで物音がしたり、大人の話している声がしたりすると、その音や声がある方を見るようになり、次第に、このような認知が運動面や対人面の発達を促していく。

【特定の大人との情緒的な絆】

生理的な微笑からあやすと笑うなどの社会的な微笑へ、単調な泣き方から抑揚のある感情を訴える泣き方へ、様々な発声は大人と視線を交わしながらの喃語へと、生まれながらに備わっていた能力が次第に、社会的・心理的な意味を持つものへと変わっていく。

子どもが示す様々な行動や欲求に、大人が適切に応えることが大切であり、これにより子どもの中に人に対する基本的信頼感が芽生えていく。特に身近にいる特定の保育士が応答的かつ積極的に働きかけることで、その保育士との間に情緒的な絆が形成され愛着関係へと発展していく。

「保育所保育指針解説書」参照

2 保育の中で大切にしたいこと

○一人一人の欲求に沿って

- ・泣いたり笑ったりして欲求していることを受け止め、安心感と親しみを育む。
- ・気持ちよく眠ったり目覚めたりできる環境を整える。

○安心できる人との関わりをたっぷりと

- ・おんぶや抱っこなどのスキンシップを十分に行い触れ合う心地よさを感じられるようにする。
- ・いないいないばあ、くすぐり遊びなどをして触れ合いの楽しさを味わえるようにする。
- ・喃語に優しく応えたり語り掛けたりする。

○感覚を育て

- ・動きを目で追ったり手を伸ばして触ったりできる玩具を用意する。
- ・心地よいわらべうたや声などを聞かせる。
- ・安全な環境の中で腹ばいや寝返りが十分できるようにする。

3 家庭との連携

○囁託医、看護師、栄養士と保育者が多面的に連携を取り子どもの様子を保護者と共有していく

※口頭や連絡ノートで知らせる。

- ・体の状況・・・睡眠のリズム（夜泣き、昼寝の時間）、手足の動き、首のすわり、寝返りなど
- ・ミルク・・・量、飲む間隔、飲むときの癖など
- ・健康状態・・・顔色、肌の状態、便の状態、機嫌、咳や熱の有無など

○日々の子どもの姿を保護者に伝える

- ・乳児期の発達は、心身ともに個人差が大きいことを伝える。
- ・子育ての楽しさが感じられるように、我が子をかわいいと思えるようなエピソードなどを伝える。

○乳幼児突然死症候群（SIDS）や乳幼児ゆさぶられ症候群（SBS）の正しい知識を知らせる

- ・寝具は固めにして、掛け布団が顔に掛からないように注意し、ガーゼなど顔を覆う物をそばに置かないよう伝える。
- ・大人の目が届くところに寝かせ、うつぶせ寝はさせないよう伝える。
- ・身体や頭を揺さぶったりしないよう伝える。

○保護者の育児に対する不安や戸惑いを受け止め、気持ちが軽くなるような育児のワンポイントアドバイスやアイデアを提供する

- ・夕方は泣きたくなる赤ちゃんもいるのでゆったりとした気持ちで受け止めるよう伝える。
- ・沐浴をすると気分が変わって泣き止むこともあることを伝える。
- ・保護者の体調が悪そうなときは、小さな声で「大丈夫？」などと気遣う声を掛ける。

○「食べる、寝る、遊ぶ」の生活リズムが安定することが心身の健やかな成長につながることを伝える

- ・赤ちゃん自身のリズムに沿いながらも、寝るときには部屋を暗くし朝は明るい陽の光で目覚めるように、少しずつリズムを作るよう伝える。
- ・眠くて泣いて授乳できないときは、先に“ちょっと寝”させてから授乳してもよいことを伝える。
- ・首がすわり始めたら少しずつ腹ばいにしたり、寝返りの兆しが見えたらおもちゃで誘ったりちょっと手を添えてみて赤ちゃんが自力で寝返りするのを待ってみよう伝える。

○健康的な生活に関心がもてるように、日々の健康管理の情報や予防接種について知らせる

- ・発熱や下痢、感染症にかかったときには受診や手当の方法について知らせ、保護者が看護するときのヒントを提供する。
- ・予防接種のスケジュールを知らせる。

○医療的な配慮を必要とする疾病などがある場合は、正しい知識のもとに、必要な支援を行っていく

- ・保護者の心配な気持ちや不安を受け止めて、一緒に考えていく姿勢を伝える。
- ・かかりつけ医や園医、医療機関と連携を取り、必要な情報を収集し、保護者と共有する。
- ・体調の変化を丁寧に伝え合い、家庭と園で子どもの成長を見守っていけるようにする。

おおむね3か月未満	
ねらい	○保育者に気持ちを受け止めてもらったり、生理的欲求が満たされたりして、一人一人の生活リズムで安心して過ごす。
経験する内容	健康・生活 <ul style="list-style-type: none"> ・保育者に見守られ安心して、眠ったり目覚めたりする。 ・一人一人の生活リズムに合わせて、ミルクを飲ませてもらう。 ・おむつを替えてもらう心地よさを感じる。 ・落ち着いた雰囲気の内や戸外で、抱っこしてもらったり、あやしてもらったりすることで、安定した気持ちと心地よさを感じる。 ・泣き声で自分の欲求を表し、受け入れてもらい安心して外の世界につながっていく。
	人との関わり <ul style="list-style-type: none"> ・動くものを目で追ったり、目の前にいる人をじっと見たりする。 ・音のする方や人の声のする方に顔を向ける。 ・機嫌のよいときは、「アー」「ウー」などの喃語を出すようになる。 ・身近な大人から優しく言葉を掛けられたり、歌ってもらったりして喜ぶ。 ・あやされると声を出したり、手を動かしたり、笑ったりして喜ぶ。
	遊び
環境構成	○室内、玩具、寝具を清潔に保つ。 ○硬めの寝具に寝かせ、顔にかぶさるものを置かない。 ○室温、換気、採光、湿度の調整を行い、清潔で安心して眠れたり、過ごせたりする環境を整える。
保育者の援助	○仰向けに寝かせ、睡眠中の窒息、突然死(SIDS)の事故予防に十分気を付ける。 ○体の発疹、咳、鼻水など、体調の小さな変化に気付く。 ○沐浴や清拭などで皮膚の清潔を保つ。(体のくびれなども丁寧に洗う) ○視線を合わせて優しく語り掛けたり、落ち着いた雰囲気です授乳したりして、特定の保育者との関わりから愛着を育む。 ○機嫌のよいときも泣いているときも、優しく応えて受容する。 ○泣いているときは、子どもの状態を受け止め、優しく「どうしたのかなあ?」「ミルクを飲みたいのかなあ?」などと語り掛ける。 ○機嫌のよいときは、腹ばいや仰向けなどの姿勢にしたり、保育者が目を合わせて言葉を掛けたりして、いろいろな感覚を刺激する。
遊び絵本	○抱っこなどのスキンシップや笑顔で語り掛けるなどして触れ合う。 ○気候のよいときは外気浴をして気分転換を図る。 ○気持ちが安定する心地よい語り掛けやきれいな歌声を聞かせる。 ○わらべうた「ちょちちょあわわ」など
家庭との連携	○送り迎え時の丁寧な対応や連絡帳のやり取りの中で、その日の様子を伝えながら情報を共有し、預けていることへの安心感をもてるようにし、保護者との信頼関係を築いていく。 ○生理的な欲求に応える(たっぷり飲む・ぐっすり眠る・おむつを替えてもらい心地よくなる)ことが、生活のリズムを安定させ心身の健やかな育ちにつながることを伝える。 ○ミルクの量や授乳の仕方・哺乳瓶の乳首のサイズなどは、個人差に留意し、保護者と確認しながら無理のないように進める。 ○子育ての大変さだけが積み重ならないように、保護者の子育ての悩みや質問に答えたり、保育体験に誘ったりして子育ての喜びを実感できるように援助していく。 ○突然死(SIDS)、ゆさぶられ症候群の正しい知識を知らせる。

おおむね3か月 ～ 6か月未満

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○飲む、眠る、遊ぶなどのリズムが徐々に安定し機嫌よく過ごす。 ○保育者と十分に関わり、欲求を受け止めてもらうことで、親しみをもち安定して過ごす。 ○あやされたり、声を掛けられたりすると喜び、自分でも声を出す。 						
経験する内容	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; background-color: #d9ead3;">健康・生活</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちよく眠ったり、目覚めたりする。 ・おむつ交換のときや機嫌のよいときは、体に触れてもらい、心地よさを知る。 ・腹ばいの姿勢になると、首を上げたり、徐々に肘で上半身を支えようとする。 ・保育者に支えられて、体を活発に動かす。 ・母乳やミルクを十分に飲めるようになる。 ・ミルクの後に、白湯を飲んだりする。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; background-color: #f4cccc;">人との関わり</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・親しい人の顔が分かるようになり、あやされると声を立てて笑う。 ・相手をしてくれる保育者の顔をじっと見つめ、自分から相手に微笑み掛けるようになる。 ・手に持った玩具をなめて確かめる。 ・まわりの物に興味を示し、目で追ったり、つかもうとしたりする。 ・声や泣き声で欲求を表す。 ・機嫌のよいときは、盛んに喃語を発声する。 ・声を出すことを喜び、一人で声を出して遊ぶ。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; background-color: #cce5ff;">遊び</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者の歌を聞いたり、簡単な手遊びを見るようになる。 </td> </tr> </table>	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちよく眠ったり、目覚めたりする。 ・おむつ交換のときや機嫌のよいときは、体に触れてもらい、心地よさを知る。 ・腹ばいの姿勢になると、首を上げたり、徐々に肘で上半身を支えようとする。 ・保育者に支えられて、体を活発に動かす。 ・母乳やミルクを十分に飲めるようになる。 ・ミルクの後に、白湯を飲んだりする。 	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・親しい人の顔が分かるようになり、あやされると声を立てて笑う。 ・相手をしてくれる保育者の顔をじっと見つめ、自分から相手に微笑み掛けるようになる。 ・手に持った玩具をなめて確かめる。 ・まわりの物に興味を示し、目で追ったり、つかもうとしたりする。 ・声や泣き声で欲求を表す。 ・機嫌のよいときは、盛んに喃語を発声する。 ・声を出すことを喜び、一人で声を出して遊ぶ。 	遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の歌を聞いたり、簡単な手遊びを見るようになる。
健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちよく眠ったり、目覚めたりする。 ・おむつ交換のときや機嫌のよいときは、体に触れてもらい、心地よさを知る。 ・腹ばいの姿勢になると、首を上げたり、徐々に肘で上半身を支えようとする。 ・保育者に支えられて、体を活発に動かす。 ・母乳やミルクを十分に飲めるようになる。 ・ミルクの後に、白湯を飲んだりする。 						
人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・親しい人の顔が分かるようになり、あやされると声を立てて笑う。 ・相手をしてくれる保育者の顔をじっと見つめ、自分から相手に微笑み掛けるようになる。 ・手に持った玩具をなめて確かめる。 ・まわりの物に興味を示し、目で追ったり、つかもうとしたりする。 ・声や泣き声で欲求を表す。 ・機嫌のよいときは、盛んに喃語を発声する。 ・声を出すことを喜び、一人で声を出して遊ぶ。 						
遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の歌を聞いたり、簡単な手遊びを見るようになる。 						
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ○全身運動（腹ばい・寝返り）ができるように、広い空間を確保する。 ○触れたりなめたりしても安全な玩具を用意する。 ○個人差に応じて睡眠が取れるように、環境を整える。 ○授乳・おむつ替え・食事の場所を日々一定にして、安定した生活の流れを整える。 						
保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ○着替えやおむつ交換、沐浴では体の清潔を保ち、「気持ちいいね」「さっぱりしたね」などと言葉を掛け、快・不快の感覚を育てる。 ○玩具の清潔に留意し、なめる、しゃぶる、などして感覚機能が十分発達できるようにする。 ○保育者の援助で寝返りや腹ばいを繰り返し楽しめるようにする。 ○子どもの表情をよく見て様子に気付いたり、声を掛けたりして関わりを深めていく。 ○ゆったりとした気持ちで接し、快は共感し、不快なことは取り除くように配慮し、心地よく安定して過ごせるようにする。 ○身近にあるものを一緒に見て「お花がきれいだね」などと言葉を添えて共感し合う。 ○子どもの喃語に反応し、応えていく。 						
遊び絵本	<ul style="list-style-type: none"> ○見る、なめる、噛む、触れる、握るなどの感触を楽しむ遊び (なめても安全な玩具・動きを追視できる玩具・握りやすい玩具など) ○ふれあい遊びのための素材（様々な色の布やシフォンなどやわらかい布など） ○気持ちが安定する心地よい語り掛けやきれいな歌声を聞かせる。 ○わらべうた「じーじーばあ」「いちりにりさんり」 「いないいないばー」など ○こもりうた「ねんねんねやまの」など 						
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○日中は明るいところで過ごし、夜は落ち着いた環境でぐっすり眠ることで安定して過ごせる生活のリズムを作っていくことを知らせる。 ○保護者の育児を支えていくため、成長が著しい時期であることや個人差も大きいことを伝え、一人一人の子どもの成長を喜び合う。 ○成長にあった環境を整え、安全に過ごせるよう助言する。 						

いい気持ちだなー 安心だなー

ねらい： 生理的欲求を十分満たしてもらい、安心して気持ちよく過ごす。

身近な大人との関わりから愛着関係や基本的信頼感が形成されていく時期。3か月頃には体重は出生時の2倍になり身長も10cmほど伸びる。

ゆっくりと追視したり、声のする方に顔を向けたり快・不快を感じる力が芽生え抱っこしてもらおうと泣き止んだりする。

首がすわり始めると少しずつ自分で首を動かし体の上で手と手、足と足を触れあわせたりして生き生きと遊び始める。

【 ○保育者の援助 】

○「おなかがすいたよ」「オムツが濡れたよ」「ねむい」などの生理的な欲求を泣いたりして表したときに、言葉にできない気持ちを温かく受け止める。

経験している内容

- ◆健康・生活
- ♥人との関わり
- 遊び

- ◆♥オムツ交換：1対1になる大事なひととき
目を合わせて触れあって



- ♥赤ちゃんの気持ちになって：
優しい気持ちで



- ♥沐浴：「気持ちいいねー」そのときに合った言葉を掛けてあげることによって気持ちと言葉が一致する



【 ★環境構成 】

★感覚がめざましく発達する時期。優しい声が聞こえ、安心して眠れる環境作りが愛着関係を育む。

- ♥●ばあ！と：笑顔を向けるだけでも楽しい！

- ◆♥ミルク：抱っこして顔を見て。飲んだ後は「おいしかったね」の声掛けとゲップも忘れずに



聞こえるよ 見えるよ 触れるよ

ねらい：あやされたり声を掛けられたりして喜び機嫌よく過ごす。

寝返りが始まる。自分の意志で見つけたものや興味のあるものに近づけるようになり、どんどん動き、赤ちゃんの世界が広がり始める。

経験している内容

◆健康・生活 ♥人との関わり ●遊び

◆♥離乳食

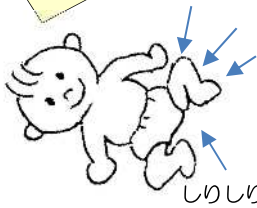
始めはひと匙からスプーンに慣れて



♥●わらべうた

ゆったりと温かい声で

♪いちりにりさんり
しりしりしり♪



しりしりしり

いちり
にり、を
段々くずぐず
ながらおさえて
さいごにお尻を
くずぐずします

♪ちょち ちょち あわわ
かいぐりかいぐり とつとのめ
おつおてんてん はらぼんぼん
ちょち ちょち あわわ
かいぐり かいぐり とつとのめ♪



♪うまはとしとし
ないても つよい
うまはつよいから



ちょちちょち
手を叩きます



あわわ
口をあわわ
と軽く叩きます



かいぐり
かいぐり
両手をぐるぐる
回します



とつとのめ
手のひらを
つつみます

おつお
てんてん
豆を軽く
叩きます。



はらぼんぼん
おなごを叩きます



【 ★環境構成 ○保育者の援助 】

★全身運動ができるように広い空間を確保し安全な玩具を用意する。いつも同じ生活リズムで過ごせるようにする。

○子どもの表情をよく見て声を掛けたり、喃語に答えたり「気持ちいいね」「きれいだね」など声を掛け、共感していく。

♥●腹ばいで遊ぶ：

世界が広がり、笑顔を見せたり、楽しさを共有することも、少しずつできるようになる



●おもちゃ：

なめたり握ったり手を伸ばしてさわったりできるおもちゃ



◎◎ちゃんもつよ



おおむね6か月～1歳3か月未満

お座りから… 最初の一步、世界が広がる！

1 発達の特徴

【運動発達-「座る」から「歩く」へ】

座る、はう、立つ、つたい歩きを十分経験し一人で歩けるようになる。運動面の発達により、視界が広がり様々な刺激を受け、生活空間を広げていく。特に一人歩きによって自由に移動できることを喜び、好奇心旺盛になり、身近な環境に働きかける意欲が高まる。自分の好きなところに行けるという満足感が更なる発達の原動力となっていく。

【活発な探索活動】

特定の大人との信頼関係による情緒の安定を基盤にして探索活動が活発になる。自由に手が使えるようになることは、子どもが自ら触ってみたい、関わってみたいという意欲を高める。様々な物に手を伸ばし、次第に両手に持って打ちついたり、叩き合わせたりできるようになり、握り方も掌全体で握る状態から、全ての指で握る、親指と人差し指でつまむ動作へと変わっていく。全身を動かし、手を動かす中で身近な物へ興味や関心をもって関わり、更に探索意欲を高めていく。

【愛着と人見知り】

身近な人の顔が分かりあやしてもらおうと喜び、愛情を込めて受容的に関わる大人とのやりとりを盛んに楽しみ、徐々に周囲の大人に働きかけていく。初めての人や知らない人に対して泣いたり人見知りしたりするようになるが、これは特定の大人との愛着関係が育まれている証拠といえる。

【言葉の芽生え】

声を出したり、自分の意思や欲求を喃語や身振りで伝えようとする。身近な大人が子どもの気持ちをくみ取りそれを言葉にして返すなど、応答的な関わりを子どもは心地よいものと感じ、徐々に簡単な言葉の意味することが解ってくる。大人とのやり取りが言葉によるコミュニケーションの芽生えとなる。自分の欲求や気づいた事を指でさし示しながら、大人と関心を共有し、そのものの名前や欲求の意味を徐々に理解していく。やがて言葉となり一語文となり、その一語の中に子どもの様々な思いが込められ、身近な大人との対話の基本になる。

【離乳の開始】

母乳やミルクの乳汁栄養からすりつぶした状態の食べ物を経て、徐々に形ある食べ物を摂取するようになる。少しずつ食物に親しみ嚥下と咀嚼を繰り返しながら、幼児食へと移行していく。1歳頃からは自分で食べたいという意欲が芽生え、食べ物に手を伸ばして食べるようになる。離乳食による栄養摂取は、生命維持と健康を保つために欠かせないが、まず子どもが喜んで食べるように、様々な食品に慣れ、食材そのものの味に親しみ、味覚の幅を広げていく。

(「保育所保育指針解説書」参照)

2 保育の中で大切にしたいこと

○情緒を安定させて過ごす

- ・一人一人の甘えや欲求に十分に応え、安心して過ごせるようにする。
- ・身の回りの特定の大人との関わりを大切にする。

○体をたくさん動かして遊ぶ

- ・座る、はう、立つ、つたい歩きなどが十分にできる安全で、活動しやすい環境を整える。
- ・手、指、足腰を使って、探索活動が十分できるようにする。

○特定の大人との応答的な関わりをもつ

- ・喃語や身ぶり、指さしなどの子どもの思いをくみ取り、発声や喃語に応答しながら、大人とのやりとりの心地よさを味わわせ発語の意欲を育てる。
- ・子どもの思いに言葉を添えてやり取りを楽しみながら、人と物とを通して気持ちを交流する楽しさが味わえるようにし、思いを共有し合う。

○焦らず、ゆっくり、楽しく食べる

- ・一人一人の発達に合わせて離乳から幼児食までの段階を丁寧に進め、自分で食べようとする気持ちを大切にしていく。

3 家庭との連携

○いろいろな物を見たい、触れたい気持ちを受け止めるよう伝える

- ・行動範囲が広がり、様々なものに興味をもち触れたがるので、探索活動が十分できる安全で衛生的な環境を整えることが大切であることを伝える。
- ・この時期に多い子どもの怪我や事故（転倒、落下、誤飲、窒息など）について知らせる。

○お母さんが心の基地であることを伝える

- ・活動範囲が広がっていく反面、人見知りや後追いをする時期でもある。子どもが不安を示したときは、まず抱っこしたりして、安心感がもてるようにするよう伝える。

○子どもの声やしぐさ、指さしを見逃さないで関わることの大切さを伝える

- ・子どもが喃語やしぐさなどで自分の意思を伝えようとする姿を見逃さないようにするよう伝える。
- ・子どもの気持ちをくみ取り、それを言葉にして返すなど応答的に関わるよう伝える。大人の声や、やり取りを心地よいものと感じられるようになり、それが発語につながることを知らせる。

○離乳食は焦らず、ゆっくりと進めるよう伝える

- ・離乳食が始まり、保護者には不安や焦りが出てくることもある。保護者の具体的な悩みには、共に考えながら応えていく。
- ・離乳食を進める中で、家庭でもアレルギー反応がないか確認していくように声掛けするアレルギーがある場合には、誤食などの間違いがないように園と家庭とで細かく連携を取り合っていく。

おおむね6か月 ～ 9か月未満

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○腹ばい、寝返り・座位など体全体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ○いろいろな食品の味や形態、スプーンに慣れる。 ○保育者と十分に関わり、要求を受け止めてもらうことで、親しみをもち安定して過ごす。 ○保育者の笑顔や語り掛けを喜び、自分でも声を出すことを楽しむ。 						
経験する内容	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">健康・生活</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・一定のリズムで安心して眠り、機嫌よく目覚める。 ・腹ばいになって手の平で上半身を支えられるようになり、腹部を軸に回ったり、後ずさりをしたりする。 ・一人で座位の姿勢ができるようになる。 ・離乳食が始まり、いろいろな食品の味や形態に慣れ、少しずつ食べる量が増える。 ・保育室の外に出て、散歩や戸外で過ごすことを喜ぶ。 ・いつも世話をしてくれる特定の保育者に対して求め、自分から関わることにより安定した気持ちで過ごす。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">人との関わり</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・人見知りをしたり、親しみをもっている保育者の後追いをしたりする。 ・心地よいときは笑ったり、微笑んだりし、不快なときは泣いて訴える。 ・いつも一緒にいる子ども同士の間合いも芽生える。 ・手と口を使って触れたり、噛んだり、なめたりする。 ・見えたものに興味を示し、手に取り、触るなどの経験を楽しむ。 ・喃語や片言を優しく受け止めてもらい、保育者とのやり取りを楽しむ。 ・機嫌がよいときには、さかんに喃語で話す。 ・保育者が歌ったり、手遊びをしたりしてくれるのを喜ぶ。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">遊び</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・音の出る玩具を握って振ったり叩いたりして楽しむ。 </td> </tr> </table>	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・一定のリズムで安心して眠り、機嫌よく目覚める。 ・腹ばいになって手の平で上半身を支えられるようになり、腹部を軸に回ったり、後ずさりをしたりする。 ・一人で座位の姿勢ができるようになる。 ・離乳食が始まり、いろいろな食品の味や形態に慣れ、少しずつ食べる量が増える。 ・保育室の外に出て、散歩や戸外で過ごすことを喜ぶ。 ・いつも世話をしてくれる特定の保育者に対して求め、自分から関わることにより安定した気持ちで過ごす。 	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・人見知りをしたり、親しみをもっている保育者の後追いをしたりする。 ・心地よいときは笑ったり、微笑んだりし、不快なときは泣いて訴える。 ・いつも一緒にいる子ども同士の間合いも芽生える。 ・手と口を使って触れたり、噛んだり、なめたりする。 ・見えたものに興味を示し、手に取り、触るなどの経験を楽しむ。 ・喃語や片言を優しく受け止めてもらい、保育者とのやり取りを楽しむ。 ・機嫌がよいときには、さかんに喃語で話す。 ・保育者が歌ったり、手遊びをしたりしてくれるのを喜ぶ。 	遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・音の出る玩具を握って振ったり叩いたりして楽しむ。
健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・一定のリズムで安心して眠り、機嫌よく目覚める。 ・腹ばいになって手の平で上半身を支えられるようになり、腹部を軸に回ったり、後ずさりをしたりする。 ・一人で座位の姿勢ができるようになる。 ・離乳食が始まり、いろいろな食品の味や形態に慣れ、少しずつ食べる量が増える。 ・保育室の外に出て、散歩や戸外で過ごすことを喜ぶ。 ・いつも世話をしてくれる特定の保育者に対して求め、自分から関わることにより安定した気持ちで過ごす。 						
人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・人見知りをしたり、親しみをもっている保育者の後追いをしたりする。 ・心地よいときは笑ったり、微笑んだりし、不快なときは泣いて訴える。 ・いつも一緒にいる子ども同士の間合いも芽生える。 ・手と口を使って触れたり、噛んだり、なめたりする。 ・見えたものに興味を示し、手に取り、触るなどの経験を楽しむ。 ・喃語や片言を優しく受け止めてもらい、保育者とのやり取りを楽しむ。 ・機嫌がよいときには、さかんに喃語で話す。 ・保育者が歌ったり、手遊びをしたりしてくれるのを喜ぶ。 						
遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・音の出る玩具を握って振ったり叩いたりして楽しむ。 						
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ○お座りができ始める頃は、子どものまわりに危険なものを置かないようにするなど、転倒時の安全に配慮する。 ○誤飲を避けるため、口や鼻に入らない大きさの玩具を用意する。 ○興味のもてる玩具(音の出る玩具など)を、子どもから見たり触れたりできる位置に用意する。 						
保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ○感染症にかかりやすい時期なので、一人一人の健康状態(機嫌・食欲・体温など全身状態)を十分に観察し、適切に対応する。 ○腹ばいや寝返りをしながら興味を持った物を手にできたときの喜びに共感し、遊ぶ意欲を育てていく。 ○興味を持った玩具に向かって進もうとする気持ちを大切にす。 ○一つ一つの動作に言葉を添えて語り掛けることで、次の行動に期待をもてる気持ちを育てていく。 ○人見知りなどで子どもが不安を表したときは、抱きしめるなど温かく受け止め、情緒が安定するまでは、特定の大人との信頼関係をしっかり育む。 						
遊び絵本	<ul style="list-style-type: none"> ○感触を楽しむ遊び(なめらか、ざらざら、硬い、軟らかいなど異なった感触の玩具、いろいろな感触の布、お手玉、歯固めなど) ○寝返りや腹ばいで遊ぶ意欲を引き出す遊び(目の前に置いて遊ぶ玩具、音の出る玩具…ボール、起きあがりこぼし、でんでん太鼓、マラカスなど) ○わらべうた「たかいたかい」「うえからしたから」 「いっぼんばしこちょこちょ」など ○絵本「いないいないばあ」「じゃあじゃあびりびり」 「がたんごとんがたんごとん」など 						
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○感染症にかかりやすい時期になるため、感染症の症状や予防接種などについて適時、情報を伝える。 ○家庭状況を把握しながら、生活リズムの大切さをアドバイスする。 ○人見知りは成長過程であり、愛着関係ができていからこそその姿なので、十分受け止めることの大切さを知らせる。 ○離乳食を進めるにあたり、家庭で食材を食べた上で食材を広げていくことを保護者に伝え、連携していく。(食物アレルギーの発症を防ぐため) 						

おおむね9か月 ～ 12か月未満

ねらい	<p>○お座り、はいはい、つかまり立ち、伝い歩きとその時々動きや姿勢を十分経験する。 ○引っ張る、つまむ、握る、出し入れする、打ち合わせるなど、手指を使った遊びを楽しむ。 ○食べることに期待をもち、自分から口をあけて食べようとする。 ○保育者と十分に関わり、欲求を受け止めてもらい、親しみをもち安定して過ごす。 ○身近な人や物に興味や関心をもち、探索活動を楽しむ。</p>
経験する内容	<p>健康・生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一定時間安心して眠る。 ・補助されながら、コップで飲む。 ・離乳食が進み、様々な食品の味や形態に慣れ、手づかみで食べようとする。 ・興味のある場所へ自由に姿勢を変えながら移動し、触れる、なめる、登る、降る、押す、引っ張るなど体を動かして活発に遊ぶ。 ・身近な保育者との関わりを喜び、物のやり取りをしたり、親しみをもち自分から関わったりする。
	<p>人との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手から「ちょうだい」と求められると、物を渡すことができる。 ・見つけた物や欲しいものを指さして訴えたり、他児の持っている物に手を出したり、取られると泣いたりする。 ・戸外に出ることや散歩を喜び、周囲の物や動物に関心を示す。 ・名前を呼ばれると自分のことだと分かり、相手の顔を見るなど反応を示す。 ・保育者が歌ったり、手遊びをしてくれるのを喜び、まねして盛んに声を出す。 ・指さしや喃語で自分の要求や気持ちを伝えようとする。
	<p>遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本や玩具、身近な生活用具など身の回りの物を見る、聞く、触れるなどして楽しむ。 ・笛やラッパを吹いて音を出すことを楽しんだり、音楽に合わせて体を動かしたりする。 ・小さい物を親指と人差し指でつまんだり、箱やかごの中からいろいろな物を出し入れしたり、物を打ち合わせたり、積んだりして遊ぼうとする。 ・わざと物を落としたり、落ちた場所をのぞいたりすることを繰り返し楽しむ。
環境構成	<p>○はいはい、つかまり立ち、伝い歩きなど、様々な動きができるように、余裕のあるスペースを確保し、危険のないように環境を整える。 ○はうことを十分楽しめるようにゆるやかな斜面や段差などを常設してもよい。 ○つかまり立ちをするようになるので、不安定な物や角のある物を周囲に置かない。 ○誤食、誤飲を防ぐために、口に入れて危険なものは手の届く範囲に置かない。 ○つまんで遊べる玩具なども用意するが、まだ口に入れて確認する時期でもあるので、大きさ、使い方に配慮し、清潔を保つように気を付ける。 ○お座りができるようになると両手を使って遊ぶようになるので引っ張る、つまむ、握る、出し入れする、打ち合わせるなどバリエーション豊かに遊べる玩具を用意する。</p>
保育者の援助	<p>○喃語や指さし、身振りから、子どもの気持ちをくみ取り、言葉にして返すなど応答的な関わりの中で大人とのやり取りの心地よさを味わわせ、表現意欲を高めていく。 ○はいはいの経験が十分できるように、興味のある玩具で誘ったり、保育者も一緒に「まてまて遊び」をしたりして、より楽しめるようにする。 ○「ちょうだい」「どうぞ」「ありがとう」の言葉を添えてやり取りを楽しみ、物を介して人と気持ちを交流させる楽しさが味わえるように、やさしく丁寧に関わる。</p>
遊び絵本	<p>○体を動かす遊び（カラートンネル、緩やかな斜面、段差など） ○つまむ、握る、引っ張る、打ち合わせるなどの手指を使った遊び（穴落とし、木製自動車など掌全体で持てる玩具、箱から引き出す玩具など） ○わらべうた「えんやらもものき」「うまはとしとし」「どんぶかっか」など ○絵本「いいおかお」「おーいはーい」「おさじさん」など</p>
家庭との連携	<p>○行動範囲が広がり様々なものに触れたがるので、安全かつ衛生的な環境を整え探索活動が十分できるようにしながら、子どもの怪我や事故に気を付けるよう伝える。 ○発育、発達には個人差が大きいので、特に離乳食の進め方などの不安、焦りなどを受け止め共に考えながら、子どもの姿や成長の様子を具体的に伝えていく。 ○筋力や全身の平衡感覚を育てる上で、はいはいを十分にすることの大切さを伝えていく。</p>

おおむね1歳 ～ 1歳 3か月未満

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○はう、立つ、伝い歩き、歩き始めるなど体全体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ○いろいろな食品の味や形態に慣れ、自分から食べようとする。 ○自分の意志や欲求を声や指差し、動作などで伝えようとする。 ○身近な人や物に興味や関心をもち、探索活動を楽しむ。 	
経験する内容	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・こぼすことも多いが、自分でスプーンを持って食べようとしたり、コップを持って飲む。 ・食べ物の好みがはっきりしてくる。 ・保育者の言葉掛けに合わせて手や足を動かし、着替えをさせてもらう。 ・転んでもまた歩くことを繰り返し、段差を手をついて登ったり後ろ向きに降りたりする。
	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・周りにあるものに興味をもち、親指と人差し指でつまんだり、小さいものを拾って穴に入れたりする。 ・保育者に見守られて、一人で機嫌よく遊ぶ。 ・生活や遊びの中で保育者のすることに興味をもち、まねようとする。 ・保育者と一緒にまてまて遊びや「ちょうだい」「どうぞ」などのやりとりを楽しむ。 ・室内や戸外で探索活動を十分に作る。 ・欲しいものを指差したり、声を出したり、動作で伝えようとする。 ・名前を呼ばれると手を上げたり、「はい」と返事をしたりして楽しむ。
	遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・「ワンワン」「ブーブー」など、知っている物の名前を言ったり、指を差したりする。 ・保育者と一緒に日常の挨拶を身振りでする。 ・保育者に絵本を読んでもらうことを喜ぶ。 ・リズムに合わせて体をゆすったり、手足を動かしたりする。
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ○自分から探索活動を楽しめるように環境を整え、危険のないようにする。 ○段差や低い斜面を使って、体をたくさん動かして遊べるようにする。 ○午前寝の必要な子どもには落ち着いて眠れる環境を整える。 ○指先を使って遊ぶことができる手作り玩具を用意する。 	
保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ○安心できる保育者との関わりを深めながら、他の保育者との関わりにも広げられるようにする。 ○子どもの表情や動きを見ながら、ゆっくり歌ったり、身振りや動作をその子のペースに合わせるようにする。 ○指差しなどの表現に気付いて「お花咲いてるね」「ブーブーあったね」と子どもの思いを言葉に置き換え、思いを共有していく。 ○膝に抱いて絵本を読んだり、触れ合い遊びをしたりして、一对一の関わりを大切に心地よさを感じられるようにしていく。 	
遊び絵本	<ul style="list-style-type: none"> ○歩行を楽しめる遊び（引き車、木製動物の車付き玩具 など） ○はいはいで登ったり降りたりすることを楽しめる遊び（牛乳パックなどで作った段差、緩やかなスロープなど） ○入れたり出したり、落としたりすることを楽しめる遊び（透明のチューブに物を入れて落とす、穴の開いた容器にチェーンリングやお手玉を入れるなど） ○わらべうた 「だいこんいっぽん」「ちゅっちゅこっこ」など ○絵本 「どうぶつのおやこ」「くつつあるけ」「きゅっきゅっきゅっ」など 	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○一人歩きが始まり、周囲の物への興味・関心も広がる時期なので、家の中の安全には十分気を配るよう知らせる。（やけどや誤飲） ○動きが活発になるので、体を動かしやすい服装を用意してもらうことを伝えていく。 ○物と言葉が一致できるように、ゆっくり分かりやすく話すよう伝える。 ○子どもが伝えようとしていることを受け止め、応えてあげることの大切さを知らせる。 	

よいしょ、よいしょ…できた！ にっこり！

ねらい：体をたくさん動かして遊ぶ。

ホールで巧技台とマットを組み合わせた山の反対側から「おいで！」と保育者に誘い掛けられ、真剣な眼差しで小山を登り、にっこり！繰り返し遊んでいるうちに月齢の高い子は、小山の上で、自分で体位も変えられるようになり、できる嬉しさから繰り返し遊びを楽しんでいる。

【★環境構成・○保育者の援助】

- ★様々な動きができるように、余裕のあるスペースを確保し、危険の無いように環境整備する。
- 遊びに誘ったり、できた喜びを共感したりして、体を動かして遊びことが楽しく感じられるよう援助していく。

経験している内容

◆お座り、はいはい、つかまり立ち、伝え歩き、登る、降りるなど体を動かして遊ぶ。

●興味のある場所へ這う、歩くなど移動して、体をたくさん動かして遊ぶ。



(12か月頃)

♡保育者に気持ちを受けて止めてもらいながら、自分の思いを表す。



(1歳3か月頃)

◆健康・生活 ♡人との関わり ●遊び

これ、はいるかな？ あっ、はいった！… あれ、でてこない？

ねらい：身近なものに興味や関心をもち、好きな遊びを楽しむ。

【子どもの姿】

掌全体から指先で物をつまめるようになり、いろいろな物に興味を示し試して遊んでいる。

ペットボトルの空き容器とカラフルなキビがらの穴落としの手作り玩具で遊ぶ。

長細く、口の小さな容器でも指先を上手に使って入れたり、出したりを繰り返し楽しんでいる。

【★環境構成・○保育者の援助】

- ★つまむ、握る、引っ張るなど手指を使って遊ぶことのできる手作り玩具を用意する。トラブルにならないように同じ玩具を複数用意し、子ども達が探索活動を十分楽しめるようにする。
- 子どもが関わりたくなるような、興味のある玩具で誘ったり、子どもの思いをくみ取り、思いを言葉に置き換えながら、子どもの思いに共感し、より遊びを楽しめるように援助していく。

経験している内容

◆周りがあるものに興味を持ち、指でつまんで穴に入れたり出したりする。

●つまむ、引っ張る、入れたり、出したりを楽しむ。



(1歳2か月頃)

♡保育者に見守られながら、好きな遊びを楽しむ。



◆健康・生活 ♡人との関わり ●遊び

おおむね 1歳3か月～2歳未満

これなあに これやる～

1 発達の特徴

【行動範囲の拡大】

歩行が始まり、行動範囲を広げ、自ら環境にかかわろうとする意欲を高める。歩行の獲得によって自分の意志で自分の体を動かすことができ、「自分でしたい」という欲求を生活の中で発揮していく。また、脚力やバランス力が身につく、自由に手が使えるようになる。様々なものを手に取り指先を使いながら、つまんだり、拾ったり、ひっぱったり、物の出し入れや操作を何度も繰り返したりする。

絵本をめくったり、クレヨンなどでなぐり描きを楽しんだりしながら、物を媒介としたやり取りが広がり、好奇心や遊びへの意欲が培われていく。

【象徴機能と言葉の習得】

応答的な大人とのかかわりによって、自ら呼びかけたり、拒否を表す片言や一語文を言ったり、または指さしや身振りなどで表わして、親しい大人に自分の気持ちを伝えようとする。それに応え、言葉にして返すなどの関わりによって、子どもは二語文を獲得していく。

絵本の中で知っている物が出てくると、絵を指さして名称を言ったりするようになる。また、体を使って遊びながら様々な場面や物へのイメージを膨らませ、そのイメージしたものを遊具などで見立てて遊ぶようになる。このような象徴機能の発達は言葉を習得することと重要な関わりがある。

【周囲の人への興味・関心】

大人との安定した関係の中で、次第に友達が遊んでいる様子や、大人と楽しそうにやりとりをしている様子に興味や関心を示すようになる。また、友達のしぐさをまねしたり、同じ玩具を欲しがったりする。特に、日常的に接している子ども同士では、同じことをして遊ぶ姿も見られるようになる。時には、玩具の取り合いをしたり、相手に対して拒否したり、簡単な言葉で不満を訴えたりすることもあるが、こうした経験の中で、子ども同士の関わりが育まれていく。

親しい大人との信頼関係を基礎に、絵本を読んでもらったり、歌をうたってもらったり、手遊びを楽しんだりすることで、楽しさやおもしろさを感じる。

「保育所保育指針解説書」参照

2 保育の中で大切にしたいこと

○遊んでもらう喜びを感じられるようにし、一人遊びを大切にする

- ・子どもが口ずさめるような歌やわらべ歌と一緒に歌ったり、語りかけを多くする。くすぐり遊びなど体に触れたりして一緒に遊びながら、保育者に愛着を感じられるようにする。
- ・一人遊びがじっくりできるように、環境を整える。興味のあるものを把握し、一人当たりの玩具の量を豊富にし、遊びの空間が重ならないように配慮する。コーナーを作ってそれぞれの遊びの場所を保障したり、時には少人数のグループで並行遊びができるように工夫する。

○言葉で表現しきれない思いを受け止める

- ・この時期の子どもは、まだ言葉で十分表現できないので、囁む、ひっかく、押す、引っ張るなどで思いを伝えようとすることがある。未然に察知して傷にならないように様子を見ていき、大人の立ち位置を確認する。「～したかったのね」「～なのね」などと、子どもの表現しきれなかった気持ちを受け止め、言葉にしてあげながら切り替えるきっかけを作っていく。
- ・喃語や指差しなどに言葉を添えて応答する。やりとりから発語を促したり、言葉やしぐさで伝える喜びを感じられるようにし、大人と気持ちが通い合う満足感を味わわせていく。

○体をたくさん動かす経験ができるようにする

- ・身の回りの安全に十分配慮し、発達に合った環境づくりを工夫しながら、体を動かす事を楽しんでいると体感できるようにする。独歩に向けたいろいろな運動ができるようにする。

3 家庭との連携

○安全な場所でたっぷり遊べるようにすることや事故防止について伝える

- ・周囲の物への関心が広がるときなので、危なくない環境を準備することで、子どもを伸び伸びと遊ばせられることを知らせる。具体的には、物の置き方や遊ぶ場所の安全確認をすること、誤飲・転落・やけどなどに注意することを伝える。
- ・子どもが危ないことをしてしまったときは、いけないことを短い言葉で伝えるよう伝える。

○自我のめばえをくみ取る大切さを伝える

- ・自我が出てくるときで、子どもの表現から思いを理解してあげられることもあるが、そのときの体調によってはぐずぐず言って大人を困らせることもある。大人が好きな遊びに誘ったりして、気持ちを受け止めながら上手に気持ちを切り替えてあげる工夫をしてみるよう伝える。
- ・「じぶんで（やりたい）」と主張するようになり、簡単な衣類を着ることができたり、トイレで排せつしようとしたり、一人で食べようとするようになるので、意欲を受け止めながら自分なりにできたことを褒めてあげるよう伝える。

○大人と一緒に遊ぶことから遊ぶ楽しさを知り、周りへの関心が育まれることを伝える

- ・好きな遊びを繰り返し、歌や絵本も大好きになってくる時期。大人と一緒に遊んでくられることで、気持ちが満たされ落ち着いて過ごすようになることを伝える。
- ・子どもの楽しさに共感したり、一緒にできる手遊びなどを覚えて楽しんだりすることで、子どもは周りの人や物への関心や好奇心を育てていくことを伝える。

○1歳半検診の受診を促す。

- ・歩行や言葉など、発達の大きな節目であることを話し、ぜひ受診するように伝える。

おおむね1歳 3か月 ～ 1歳 7か月未満

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○自由に歩いたり、体を動かしたりして、遊ぶことを楽しむ。 ○保育者との信頼関係が深まり、安心して自分の気持ちを表現する。 ○身の回りの様々な物に好奇心や関心をもち、触れたり、使ったりして遊ぶ。 	
経験する内容	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・離乳食が完了する。 ・好きなものから食べる。 ・室内や戸外で一人で自由に歩くことを楽しむ。 ・保育者に片手を支えられて、階段を登ったり降りたりする。 ・ちぎる、つまむ、はがすなど手指を使って遊ぶ。 ・保育者に気持ちを受け止めてもらい、親しみと安心感をもつ。 ・保育者に見守られて、一人遊びを十分に楽しむ。
	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者と遊んだり、友達と遊んだりする。 ・人形やぬいぐるみに愛着をもち、抱っこをしたり、おんぶしたり、あやしたり、名前を呼んだりして遊ぶ。 ・遊具のある場所が分かる。 ・してほしいことや興味のある物を、声を出したり身振りで知らせたりする。 ・名前を呼ばれると自分のことだと分かり振り向いたり、見たりする。 ・片言が盛んになり、保育者の言葉やしぐさを模倣して楽しむ。 ・保育者と一緒に興味のある絵本を見ながら、絵を指差したり言葉の繰り返しを楽しんだりする。
	遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者と一緒に触れ合い遊びやわらべうた遊びを楽しむ。 ・歌や音楽を聴いたり、音に合わせて身体を動かしたりすることを楽しむ。 ・保育者と一緒に土、砂、水、木の葉、クレヨンなどに触れる。
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな物への興味関心が広がる時期なので、危険な物がないように注意し、自由に探索活動ができるよう十分なスペースを取るようになる。 ○一人遊びを十分に楽しめるように、少人数に分かれて活動したり、コーナーを分けるなどの工夫をする。 ○玩具の取り合いなどでトラブルが起りやすいので、同じ玩具を十分用意する。 	
保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ○離乳食が完了するこの時期は、食べる量や嗜好など個人差があり、自分で食べたいという気持ちも強くなってくるので、楽しく食べられるように配慮する。 ○積極的に戸外に出て、安全な場所で自由に歩いたり、自然物に触れるなどして探索活動を楽しんだりできるようにする。 ○一対一の関わりを大切にして、触れ合い遊びや歌遊びなどを楽しむことで信頼関係を深めていく。 ○子どもが指差したものの、喃語や片言で話そうとしていることを言葉にしてあげ、表現しようとする気持ちを育てていく。 ○トラブルになりやすいので遊びの様子を側で見守り、気持ちを受け止めたり、思いを言葉に置き換えたりして他児との仲立ちとなりその子の遊びが十分楽しめるようにしていく。 	
遊び絵本	<ul style="list-style-type: none"> ○手指を使って遊べる遊び（重ねコップ、ゴムで通したビーズのリング、お手玉など） ○絵、写真カードなど（めくりやすい素材や扱いやすい大きさを考える、一つの絵が大きいものを選ぶ） ○わらべうた 「にぎりぱっちり」「あしあしあひる」「とうきょうとにほんばし」など ○絵本 「だるまさんシリーズ」「ぎゅうってだいすき」「かおかおどんなかお」 など 	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○周囲にある物への興味や関心が広がる時期なので、感じたことや要求を受け止め、共感することが大切なことを知らせていく。 ○今楽しんでいる歌や触れ合い遊びを家庭でも一緒に楽しんでもらえるように、保護者会などの機会を利用して伝えていく。 	

おおむね1歳7か月 ～ 2歳未満

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○保育者に見守られ、一人遊びを十分に楽しむ。 ○保育者の話し掛けを喜んだり、自分から片言で話したりすることを楽しむ。 ○保育者と一緒に見立てたり、模倣したりして遊ぶことを楽しむ。 						
経験する内容	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">健康・生活</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・スプーンを使って自分で食べようとする。 ・保育者に手伝ってもらいながら、衣服の着脱をする。 ・排せつをしぐさや言葉で知らせたり、嫌がらずに便器に座ったりする。 ・歩いたり、走ったり、よじ登ったりなど自由に体を動かして遊ぶ。 ・つまむ、引っ張る、ちぎる、破るなど手や指先を使って遊ぶ。 ・保育者に見守られながら友達に関心を持ち、笑い掛けたりして一緒にいることを喜ぶ。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">人との関わり</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・自分と他者、自分の物と他者の物の区別がつくようになるが、時に友達の使っている物を独り占めしたくて取り合いし、泣いたり泣かされたりする。 ・「待っててね」と言われて、少しの間なら待つことができる。 ・好きな玩具を出して遊んだり、保育者と一緒に片付けたりする。 ・身の回りのものと名前が結びつく。 ・保育者と一緒に簡単な挨拶をする。 ・「ダメ」「イヤ」などの拒否を意味する言葉を使う。 ・知っているものの名前を言おうとする。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">遊び</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の数が少しずつ増え、二語文を使おうとする。 ・保育者と一緒にイメージしたものを玩具などで見立てたり、模倣したりして遊ぶ。 ・保育者のうたう歌やわらべうたに親しみ、触れ合い遊びをする。 ・保育者と一緒にクレヨンなどでなぐり描きを楽しむ。 </td> </tr> </table>	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・スプーンを使って自分で食べようとする。 ・保育者に手伝ってもらいながら、衣服の着脱をする。 ・排せつをしぐさや言葉で知らせたり、嫌がらずに便器に座ったりする。 ・歩いたり、走ったり、よじ登ったりなど自由に体を動かして遊ぶ。 ・つまむ、引っ張る、ちぎる、破るなど手や指先を使って遊ぶ。 ・保育者に見守られながら友達に関心を持ち、笑い掛けたりして一緒にいることを喜ぶ。 	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と他者、自分の物と他者の物の区別がつくようになるが、時に友達の使っている物を独り占めしたくて取り合いし、泣いたり泣かされたりする。 ・「待っててね」と言われて、少しの間なら待つことができる。 ・好きな玩具を出して遊んだり、保育者と一緒に片付けたりする。 ・身の回りのものと名前が結びつく。 ・保育者と一緒に簡単な挨拶をする。 ・「ダメ」「イヤ」などの拒否を意味する言葉を使う。 ・知っているものの名前を言おうとする。 	遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の数が少しずつ増え、二語文を使おうとする。 ・保育者と一緒にイメージしたものを玩具などで見立てたり、模倣したりして遊ぶ。 ・保育者のうたう歌やわらべうたに親しみ、触れ合い遊びをする。 ・保育者と一緒にクレヨンなどでなぐり描きを楽しむ。
健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・スプーンを使って自分で食べようとする。 ・保育者に手伝ってもらいながら、衣服の着脱をする。 ・排せつをしぐさや言葉で知らせたり、嫌がらずに便器に座ったりする。 ・歩いたり、走ったり、よじ登ったりなど自由に体を動かして遊ぶ。 ・つまむ、引っ張る、ちぎる、破るなど手や指先を使って遊ぶ。 ・保育者に見守られながら友達に関心を持ち、笑い掛けたりして一緒にいることを喜ぶ。 						
人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と他者、自分の物と他者の物の区別がつくようになるが、時に友達の使っている物を独り占めしたくて取り合いし、泣いたり泣かされたりする。 ・「待っててね」と言われて、少しの間なら待つことができる。 ・好きな玩具を出して遊んだり、保育者と一緒に片付けたりする。 ・身の回りのものと名前が結びつく。 ・保育者と一緒に簡単な挨拶をする。 ・「ダメ」「イヤ」などの拒否を意味する言葉を使う。 ・知っているものの名前を言おうとする。 						
遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の数が少しずつ増え、二語文を使おうとする。 ・保育者と一緒にイメージしたものを玩具などで見立てたり、模倣したりして遊ぶ。 ・保育者のうたう歌やわらべうたに親しみ、触れ合い遊びをする。 ・保育者と一緒にクレヨンなどでなぐり描きを楽しむ。 						
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ○ままごとコーナーや自由に体を動かして遊べる遊具の設置など、自分のやりたいことを、じっくりと満足できるまで遊べる環境を用意する。 ○イメージを広げて遊べるような手作り玩具を用意する。 ○玩具を子どもが出し入れしやすいよう、棚やかごには玩具の写真を貼る。 						
保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ○食事、着脱、排せつなどの生活面では、個人差を考慮し、自分でしようとする気持ちを大切にしながらさりげなく援助する。 ○自分でできた満足感を味わえるようにする。 ○子どもの伝えたい気持ちを感じ取って「～したかったのね」と言葉にし、気持ちを受け止めてもらう心地よさを味わわせていく。 ○見立て、つもり遊びや模倣遊びを一緒に楽しみ、友達同士と一緒に笑い合うなどの楽しさが共感できるようにする。 ○自分の思いで友達に一方的に関わろうとするので見守りながら、仲立ちしていく。 						
遊び絵本	<ul style="list-style-type: none"> ○伸び伸びと体を動かす遊び (巧技台やマットを重ね、よじ登ったり滑ったり飛び降りたりして遊ぶ) ○見立て遊びを楽しむ遊び(ままごと用具・積木・布・段ボール箱など) ○一人遊びがじっくり楽しめる遊び (型おとし・ボタンつなぎ・積木・粘土・クレヨンなど) ○わらべうた「きつねがさ」「まるいたまご」「とんとんとんひげじいさん」など ○絵本「くだもの」「ころころころ」「じどうしゃ」など 						
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○身の回りのことを自分でしようする姿が見られたら、その姿を伝え、家庭でも子どもの成長として受け止め、見守ってもらうようにする。 ○服や靴などは自分で着脱しやすいものを選ぶように伝える。 ○トイレトレーニングは個人差があるので、焦らずに園と家庭とで同じように進めていくよう助言する。 ○子どもの片言の言葉に耳を傾け、やり取りの楽しさを味わわせることが、言葉の獲得につながっていくことを伝える。 						

あるけるようになってのしいな

ねらい：散歩に出かけ、小さな坂や築山を登ったり下りたりする。

1歳3か月頃

ほとんどの子どもが歩けるようになり、天気の良い日は、近くの公園に出掛ける。歩くだけでなく、築山にも挑戦し、体のバランスを取って登り下りすることが楽しみになってきた。運動発達に合わせて、目的地まで散歩車で移動したり、手をつないでもらい歩いて目的地まで出掛けたりする。

【★環境構成・○保育者の援助】

- ★運動や歩行ができる場所を選んで出掛ける。楽しく感じられるように援助しながら、体を動かして遊ぶ機会を作る。
- 無理なく遊べる環境、安全な道のりや距離を考えて行先を決める。
- 繰り返し行き、安心して遊べるようにする。

経験している内容

◆健康・生活 ♥人との関わり ●遊び

◆●外へ出て、歩く楽しさを感じる。動物や出会ういろいろなものに気付く。

◆●歩いたり、坂道や築山に登り下りし、体のバランスをとって動いてみる。



♥大好きな保育者に手をつないでもらって安心して歩く。友達と一緒にいることを喜ぶ。

●繰り返して出会うものに気付いて、指差したり声を掛けたりする。

あかちゃんねんね・・・

ねらい 布や人形などで遊びながら、経験したことをやってみる。

1歳5か月頃

好きな手提げ袋を持てるだけ持って、お出掛けするのか、保育者に向かって、「バイバイ」と言う。「電車見に行くのかな？」と聞かれると「でんしゃ」と答える。近くでは、赤ちゃんのぬいぐるみに布団をかぶせて、「トントン」といつも自分がやってもらうように寝かしている子がいる。同じ場所ではあるが、それぞれが好きな遊びを楽しんでいる。

【★環境構成・○保育者の援助】

- ★仕切りやほふく室などに分かれて、いくつかの遊びの空間を設定する。興味をもって遊べるように、遊具を整理したり、子どもが満足して遊べるようにする。扱いやすさや安全を考えて手作りの遊具や優しい素材のものを用意する。
- 物の取り合いになる時もあるので、一人一人の思いをくみ取り、友達との関わりを育てる。
- 大人と一緒に関わり、楽しさを共有する。

経験している内容

◆健康・生活 ♥人との関わり ●遊び

●人形を寝かせたり、抱っこしたり、布バックをたくさん持って歩く。

♥●大人や友達がやっていたことをまねして遊ぶ。



♥●保育者や友達と簡単な物や言葉のやり取りを楽しむ。

◆遊んだものを棚から出したり、保育者と一緒に片付けたりしてみる。

ちょっとやってみようかな

ねらい：指先を使ってじっくり遊んでみる。

1歳9か月頃

穴にひもを通す遊びに興味が出てきた。プラスチックの電車の屋根についている穴に、ひもを通そうとしている。右手で、電車を押さえ左手でひもを通そうと、集中して取り組んでいる。穴からひもが出てくると引っ張ろうとする。少し補助してあげると、指先でつまみ出した。そして、2台目の電車にも挑戦する。

【★環境構成・○保育者の援助】

- ★興味をもって取り組めるように、遊具を用意し、一人一人がじっくり遊べるようにする。
- 「やりたい」という気持ちを大切にしながら、さりげなく援助し、「できた」という達成感を味わえるようにする。

経験している内容

◆健康・生活 ♥人との関わり ●遊び

- 興味をもつと集中して遊びに取り組もうとする。指先を器用に動かして、小さな穴にひもを通し、たくさんつなげて楽しんでいる。



- ◆●片手でひもを持って、片手で通す動作ができるようになってきている。

- ♥●できないときには、そばにいる保育者に助けをもらって取り組み、繰り返して遊ぶ。

これ、バスだね

ねらい：友達と絵本を見たり、話したりする。

1歳11か月頃

友達が見ていた乗り物の絵本に出てくる車を見て、一人の子が「バス」と言う。すると、近くにいた子も見に来る。絵本を見て話していたことから、友達の顔を見て言うようになって互いになっこり笑っている。また、「バス」と言うと、今度は、近くの子も「バス」と言ってみたりしている。

【★環境構成・○保育者の援助】

- ★子どもが取りやすい場所に、好きな絵本を置いておく。
- 子どもたちが好きになった絵本を繰り返して読んであげるようにする。
- 大人がそばでさりげなく関わり、話している言葉を聞いて、「そうだね」「○○だね」と言葉を添えながら、やり取りを促していく。また、友達と一緒にの場面で、簡単なやりとりをする楽しさを伝える。

経験している内容

◆健康・生活 ♥人との関わり ●遊び

- 棚から絵本を持ってきて好きな場面や出てきたものを指して言葉にする。

- ♥●そばにいる友達の見ている絵本に興味をもって集まって来たり、一緒に見ようとしたりして友達に関心をもつ。



- ♥●そばにいる保育者が「これは？」聞くと、三人が指差して、それぞれ「でんしゃ」と保育者を見て言うなど、繰り返してやり取りを楽しむ。

2歳児

みてみて できたよ!

1 発達の特徴

【基本的な運動機能の発達】

子どもは歩いたり、走ったり、跳んだりなどの基本的な運動機能が伸び、自分の体を思うように動かすことができるようになる。戸外を走り回るだけでなくボールを蹴ったり、投げたり、もぐったり、段ボールの中に入るなど、様々な姿勢をとりながら身体を使った遊びを繰り返し行う。その動きを十分に楽しみながら人や物との関わりを広げ、行動範囲を拡大させていく。また、つまむ、丸める、めくるなどの指先を使うことができるようになるなど、遊びが広がり、探索意欲が増し、自分がしたいことに集中できるようになる。指先の機能の発達によって大人に手助けされながら、食事、着脱、排せつなど自分の身の回りのことを自分でしようとする意欲が出てくる。

【言葉を使うことの喜び】

2歳の終わりごろには、自分のしたいこと、してほしいことを言葉で表すようになり、また、遊具などを物に見立てたり、「…のつもり」になって「…のふり」を楽しみ、ままごとなど簡単なごっこ遊びをするようになる。こうした遊びを繰り返し、イメージを膨らませることにより盛んに言葉を使うようになります。また、遊びの中で言葉を使うことや、言葉を交わすことの喜び、楽しさを味わいながら、身近な大人や子どもとのやり取りが増えていく。

【自己主張】

生活や遊びの中で、自分の意志や欲求を言葉で表そうとすることなどにより、子どもの自我が育ってくる。「じぶんで」「いや」と自己主張することも多くなり、思い通りにいかないと、泣いたり、かんしゃくを起こしたりする場面が見られる。個人差はあるが、こうした自我の育ちを大人が積極的に受け止めることで自分への自信をもつようになる。子どもは自分のことを信じ、見守ってくれる大人の存在によって、時間をかけて自分の感情を鎮め、気持ちを立て直していけるようになっていく。

「保育所保育指針解説書」参照

2 保育の中で大切にしたいこと

○自我を受け止めていく

- ・自我の拡大から充実の時期で、「じぶんで」の自己主張が最も盛んになる。思い通りにならないとかんしゃくを起こすこともあるが、子どもが自分でしようとする気持ちを大切に、で

きるまで待ち、できたことに対してはきちんと褒めて、「できた」という満足感を味わえるように関わっていく。

○何でも「じぶんで」の気持ちを大切に作る

- ・身の回りのことを自分でしようとする意欲が出てくるので、保育者は子どもの気持ちに寄り添い、受け止め、さりげなく援助していく。焦らずゆったりと見守り、子どもの自信や意欲へとつなげていく。

○いろいろな動きが楽しめるようにする

- ・保育者と様々な動きを楽しんだり、遊具を使って遊ぶことが楽しくなる。また、簡単なルールのある遊びも理解できるようになってくる。安全に気を付けながら、楽しかったという思いがもてるように、様々な経験ができるような遊びを工夫する。

○子どもの言葉や伝えたい気持ちを大切に作る

- ・子どもがしたことやしようとしていることを言葉にして伝え、うれしさや満足感が得られるようにする。ゆっくりと話し相手になり、伝えようとする気持ちを支える。生活や遊びの中で、大人や子ども同士の関わりから言葉のやりとりを楽しめるようにしていく。

3 家庭との連携

○自我の育ちをともに見守る

- ・自分の思い通りにならないとかんしゃくを起こすこともしばしばあるが、自我の順調な育ちであるということを伝え、保護者の気持ちに寄り添い、共に子どもの育ちを見守っていく。
- ・子どもが身の回りの活動ができる環境（着脱しやすい服や、脱ぎ履きしやすい靴等）を用意してもらう。「じぶんでできた」という経験から、子どもの「できた」喜びに共感して、自信につなげるようにする。
- ・「じぶんでやる」は自立の一步と捉え、子どもがやりやすい衣類の返し方や園での声掛けを具体的に知らせ、家庭でもできるように伝える。

○模倣や生活の再現、ごっこ遊びが盛んな年齢であることを知らせる

- ・記憶しているものを思い出して再現したり、大人の模倣ができるようになり、ごっこ遊びで役になりきったり、見立てたりして遊ぶことが好きになってくることを知らせ、大人が子どもの気持ちに寄り添いながら一緒に楽しむよう伝える。
- ・遊びのヒントを出してみたり、環境を整えたりすることで、言葉のやりとりや想像の世界が広がっていくことを伝える。

○排せつの自立へ向けた取り組みへの助言をする

- ・排せつの自立は個人差が大きいので、園の取組を伝えながら、焦らずに一緒に進めていくように伝える。

○進級に向けての説明を行う

- ・幼児組になる前に、幼児組の生活のスタイルを知ってもらい、持ち物や連絡方法など変わることを説明する。幼児組への移行は、親も戸惑うことが多いので、安心して進級できるように話す。

2歳児 I期 (4月～5月)

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○新しい生活や環境に慣れ、安心して過ごす。 ○保育者に見守られながら、自分のしたい遊びを楽しむ。 ○広い場所や戸外で伸び伸びと遊ぶ。 	
経験する内容	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・保育室など新しい生活の場や生活リズムに少しずつ慣れる。 ・友達と一緒に楽しく食べる。 ・保育者に援助されながら、自分で衣服や靴の着脱をしようとする。 ・保育者に誘われてトイレに行き、見守られて排せつする。 ・室内や戸外で体を動かして遊ぶ。
	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中で、簡単な挨拶や返事をする。 ・玩具を介して保育者とのやりとりを楽しむ。 ・他児のやっている遊びをまねて、同じ遊びをしようとする。 ・保育者に見守られながら、自分の好きな遊びを見付けて楽しむ。 ・保育者のそばで安心して過ごす ・保育者に気持ちを受け止めてもらいながら、自分の思いを表す。 ・生活に必要な簡単な言葉が分かり使おうとする。 ・好きな絵本や紙芝居を読んでもらう。 ・保育者と一緒に簡単な手遊びをしたり、歌を歌ったりすることを楽しむ。
	遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・見立て遊びやごっこ遊びを楽しむ。 ・音楽に合わせて体を動かしたり触れ合い遊びを楽しむ。 ・散歩に出掛け身近な自然（小動物や草花など）に興味をもち、見たり触れたりする。 ・ブロックや積木、車や電車などの玩具を組み合わせて遊ぶ。
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人のロッカーなどにマークを貼り、自分の持ち物や場所が分かるようにする。 ○自分の好きな遊びを見付けられるように、玩具の種類や設定の仕方を工夫する。 ○一人遊びがじっくりできるように環境を工夫する。 ○子どもたちが分かりやすい動線を作り、生活しやすくする。 	
保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の気持ちをくみ取りながら、新しい環境に慣れるようにしていく。 ○食事、排せつ、着脱、午睡などは、いつも同じ手順で行うようにし、安心して過ごせるようにする。 ○一人一人の気持ちに沿って丁寧に対応しながら信頼関係を築いていく。 ○子どものしたことやしようとしていることを言葉にして伝え、嬉しさや満足感を味わえるようにする。 	
遊び絵本	<ul style="list-style-type: none"> ○見立て・つもり遊び（ままごと、人形、人形の布団、牛乳パック、積木、電車など） ○指先を使う遊び（クレヨン、ブロック、洗濯バサミ、粘土など） ○戸外で体をたくさん動かす遊び（三輪車、乗用玩具、すべり台など） ○手遊び「あたまかたひざぼん」「げんこつやまのたぬきさん」「いとまき」など ○うた「チューリップ」「ぞうさん」など ○絵本「わにわにの絵本シリーズ」「たまごのあかちゃん」「いやだいやだの絵本」「しろくまちゃんのホットケーキ」など 	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○新しい環境での子どもの変化を家庭と共有し、不安を軽減できるようにする。 ○保護者との信頼関係を築いていくためにコミュニケーションを大切にする。 	

2歳児 Ⅱ期（6月～9月中旬）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○保育者の手助けを受けながら、身の回りのことを自分でやってみようとする。 ○保育者や友達と関わりながら夏の遊びを楽しむ。 ○友達に関心をもち同じ場で遊んだり、同じことをしたりして遊ぶ。 						
経験する内容	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">健康・生活</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・スプーンやフォークを使って自分で食べようとする。 ・できないところは保育者に援助されながら自分で衣服や靴の着脱をする。 ・ボタンやスナップをはめようとする。 ・室内で体を動かしたり、戸外で水遊びを楽しむ。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">人との関わり</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者を仲立ちとして、少しずつ友達と関わって遊ぶことを楽しむ。 ・保育者や友達との関わりを広げながら、安心して自分の気持ちを表す。 ・身近な小動物や植物に興味をもち、保育者と一緒に気付きや発見を喜ぶ。 ・砂、土、泥などの感触を味わって遊ぶことを楽しむ。 ・保育者に気持ちを受け止めてもらったり代弁してもらったりしながら、自分の思いを表す。 ・自分のしたいことやしてほしいことをしぐさや言葉で伝えようとする。 ・好きな絵本や紙芝居を繰り返し読んでもらうことを喜ぶ。 ・好きな歌を歌ったり、手遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かすことを楽しむ。 ・クレヨンや絵の具で自由に描いたり遊んだりすることを楽しむ。 ・ちぎる、まるめる、折る、通すなどの指先を使った遊びを楽しむ。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">遊び</td> <td></td> </tr> </table>	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・スプーンやフォークを使って自分で食べようとする。 ・できないところは保育者に援助されながら自分で衣服や靴の着脱をする。 ・ボタンやスナップをはめようとする。 ・室内で体を動かしたり、戸外で水遊びを楽しむ。 	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者を仲立ちとして、少しずつ友達と関わって遊ぶことを楽しむ。 ・保育者や友達との関わりを広げながら、安心して自分の気持ちを表す。 ・身近な小動物や植物に興味をもち、保育者と一緒に気付きや発見を喜ぶ。 ・砂、土、泥などの感触を味わって遊ぶことを楽しむ。 ・保育者に気持ちを受け止めてもらったり代弁してもらったりしながら、自分の思いを表す。 ・自分のしたいことやしてほしいことをしぐさや言葉で伝えようとする。 ・好きな絵本や紙芝居を繰り返し読んでもらうことを喜ぶ。 ・好きな歌を歌ったり、手遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かすことを楽しむ。 ・クレヨンや絵の具で自由に描いたり遊んだりすることを楽しむ。 ・ちぎる、まるめる、折る、通すなどの指先を使った遊びを楽しむ。 	遊び	
健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・スプーンやフォークを使って自分で食べようとする。 ・できないところは保育者に援助されながら自分で衣服や靴の着脱をする。 ・ボタンやスナップをはめようとする。 ・室内で体を動かしたり、戸外で水遊びを楽しむ。 						
人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者を仲立ちとして、少しずつ友達と関わって遊ぶことを楽しむ。 ・保育者や友達との関わりを広げながら、安心して自分の気持ちを表す。 ・身近な小動物や植物に興味をもち、保育者と一緒に気付きや発見を喜ぶ。 ・砂、土、泥などの感触を味わって遊ぶことを楽しむ。 ・保育者に気持ちを受け止めてもらったり代弁してもらったりしながら、自分の思いを表す。 ・自分のしたいことやしてほしいことをしぐさや言葉で伝えようとする。 ・好きな絵本や紙芝居を繰り返し読んでもらうことを喜ぶ。 ・好きな歌を歌ったり、手遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かすことを楽しむ。 ・クレヨンや絵の具で自由に描いたり遊んだりすることを楽しむ。 ・ちぎる、まるめる、折る、通すなどの指先を使った遊びを楽しむ。 						
遊び							
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ○砂、土、泥などに触れる環境を用意する。 ○身近な小動物を飼育し、生き物と触れ合える環境を作る。 ○水遊びを安全に楽しめるよう環境を整える。 						
保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ○生活の様々な場面で、自分でやりたいという気持ちを大切にし、ゆったりと関わる。 ○夏の衛生管理に十分留意し、一人一人の健康状態に気を配り水分補給や休息などに配慮する。 ○水遊びでは、事故や危険のないよう、十分な安全管理をしていく。 ○保育者が仲立ちとなりながら、気持ちをくみ取って言葉で伝えたり、見守ったりして友達の思いに気付けるようにしていく。 						
遊び絵本	<ul style="list-style-type: none"> ○感触を楽しむ遊び（スライム、粘土、クレヨン、絵の具など） ○うた 「かたつむり」「みずでっぼう」「あめふりくまのこ」「かえるのうた」など ○手遊び 「サクランボ」「さかながはねた」など ○絵本 「ぐりとぐら」「うずらちゃんのかくれんぼ」「おやおやおやさい」「はらぺこあおむし」「るるのたんじょうび」「ピーのおはなし」など 						
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○何でも自分でやりたいという自己主張が盛んなので、保護者が子育てに戸惑いや不安を感じる時期でもある。この年齢の発達の様子を伝え、保護者の気持ちに寄り添い、共に子どもの育ちを見守っていく。 ○トイレトレーニングは無理せず、便器に腰掛けることから始め、便器で排せつできたときは一緒に喜ぶことが大切であることを知らせる。 ○自分でできる喜びを感じられるように、着脱しやすい服や、脱ぎ履きしやすい靴を用意してもらう。 ○水遊びの健康チェックを正しくしてもらうとともに、健康状態の連絡を丁寧に行う。 ○感染症の発生について速やかに家庭に知らせ、情報を共有していく。 						

2歳児 Ⅲ期（9月中旬～12月）		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○保育者に見守られながら、身の回りのことを自分でしようとする。 ○友達との関わりを深め、気の合う友達と遊ぶことの楽しさを味わう。 ○戸外に出て体を十分に動かして遊んだり、散歩に出掛けたりして伸び伸びと遊ぶ。 	
経験する内容	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・食器に手を添えて食べようとする。 ・尿意や便意を感じたら保育者に伝え、自分からトイレに行こうとする。 ・排せつ後に紙で拭こうとする。 ・保育者に見守られながら、服の前後を意識して一人で着脱しようとする。 ・室内や戸外で体を動かして遊ぶ。 ・手洗いやぶくぶくうがいを保育者と一緒にする。 ・寒さに向かって、遊具を使ったりかけっこをしたりして体を動かす。
	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者を仲立ちとして、友達と言葉のやり取りをしながら、見立て・つもり遊びを楽しむ。 ・友達との玩具の取り合いやけんかを通して、保育者に仲立ちしてもらいながら相手の思いを知る。 ・秋の自然に触れながら、木の実や葉っぱなどを集めたり、それを使って遊んだりすることを楽しむ。 ・保育者に「なぜ」「どうして」と尋ね、知ろうとする。
	遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・経験したことを言葉で伝えようとする。 ・絵本や紙芝居を読んでもらい、簡単な言葉を繰り返したり興味をもった言葉をまねしたりすることを楽しむ。 ・好きな曲に合わせて歌ったり、体を動かしたりすることを楽しむ。 ・走ったり、追いかかけっこをしたり、巧技台などを使ったりして様々な運動遊びを楽しむ。
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ○戸外に出る機会を多く作り、自然に触れながら伸び伸びと遊べるようにする。 ○動きが活発になってくるので、安全に遊べるように環境を整える。 ○全身を使った遊びを十分に楽しめるような遊具を用意する。 ○ままごとやごっこ遊びの中で、見立てたり、つもりになったりして遊べるようないろいろな素材を用意しておく。 	
保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの自分でしようとする気持ちを大切に、ゆとりをもって接したり、見守ったりしながら、その姿を認め自信をもてるようにする。 ○見立て、つもり遊びのイメージが膨らむよう、自然の中や生活の中での体験を豊かにしていく。 ○模倣遊びやごっこ遊びの中で、友達と一緒に遊ぶ楽しさが味わえるよう、保育者も一緒に楽しみながら仲立ちしていく。 ○自分の気持ちや要求を自分なりに伝えようとする姿を大切に受け止め、伝わった嬉しさを感じられるようにする。 	
遊び絵本	<ul style="list-style-type: none"> ○見立て、つもり遊び（人形、布団、スカート、エプロン、ハンカチ、三角巾、手さげ袋、布、シール容器、洗面器など） ○手遊び「やきいもグーチーパー」「くだもの列車」「どんぐりころころ」「大きな栗の木の下で」など ○うた「とんぼのめがね」「うんどうかいのうた」「やまのおんがくか」「サンタクロース」「お正月」など ○絵本「だるまちゃんとてんぐちゃん」「どうすればいいのかな」「さつまのおいも」「ぐりとぐら」「まどからのおくりもの」など 	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な経験を通し、子どもが成長している姿を伝え、保護者と喜びを共有していく。 ○自我の芽生えや自分でしようとする気持ちを受け止め、子どもが自分でできた喜びを感じられるように、家庭でも見守ったり、認めたりしてもらえよう伝えていく。 	

2歳児 IV期 (1月～3月)

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○進級を楽しみにし、保育者に見守られながら簡単な身の回りのことを自分でする。 ○保育者や気の合う友達と関わって、一緒に遊ぶことを楽しむ。 ○見たり経験したりしたことから見立てたり、なりきったりして遊ぶことを楽しむ。 						
経験する内容	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">健康・生活</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・スプーンやフォークを使ってこぼさずに食べようとする。 ・保育者に見守られながら、一人で衣服の着脱をする。 ・尿意や便意を感じたら自分からトイレに行き、排せつする。 ・男児は立ち便器に慣れる。 ・室内や戸外で体を動かして遊ぶ。 ・好きな遊びを気の合う友達2、3人で楽しむ。 ・友達との関わりを通して、自分の思いを言葉や表情などで相手に伝えようとする。 ・保育者に気持ちを受け止めてもらい、気持ちを切り替えたり、待ったりしようとする。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">人との関わり</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と鬼ごっこや、簡単なルールのある遊びを楽しむ。 ・みんなの玩具を分け合ったり、順番に使ったりしようとする。 ・思ったことや感じたことを自分なりの言葉で伝えたり、保育者や友達とおしゃべりを楽しんだりする。 ・絵本や紙芝居の繰り返しの言葉やお話のおもしろさを感じ楽しむ。 ・保育者や友達と一緒に言葉のやり取りをしながら、絵本の登場人物になったり、経験したことを再現したりしてごっこ遊びを楽しむ。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">遊び</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽に合わせて歌ったり、踊ったりして表現することを楽しむ。 ・粘土、折り紙、のり、はさみなどの素材や用具を使い、保育者と一緒に作って遊ぶことを楽しむ。 ・散歩に出掛けることを喜び体を十分に動かして遊ぶ ・雪、氷、霜柱などの身近な自然に触れ、季節を感じて遊ぶ。 ・少しずつ身の回りの簡単な形や色などに関心をもつ。 </td> </tr> </table>	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・スプーンやフォークを使ってこぼさずに食べようとする。 ・保育者に見守られながら、一人で衣服の着脱をする。 ・尿意や便意を感じたら自分からトイレに行き、排せつする。 ・男児は立ち便器に慣れる。 ・室内や戸外で体を動かして遊ぶ。 ・好きな遊びを気の合う友達2、3人で楽しむ。 ・友達との関わりを通して、自分の思いを言葉や表情などで相手に伝えようとする。 ・保育者に気持ちを受け止めてもらい、気持ちを切り替えたり、待ったりしようとする。 	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と鬼ごっこや、簡単なルールのある遊びを楽しむ。 ・みんなの玩具を分け合ったり、順番に使ったりしようとする。 ・思ったことや感じたことを自分なりの言葉で伝えたり、保育者や友達とおしゃべりを楽しんだりする。 ・絵本や紙芝居の繰り返しの言葉やお話のおもしろさを感じ楽しむ。 ・保育者や友達と一緒に言葉のやり取りをしながら、絵本の登場人物になったり、経験したことを再現したりしてごっこ遊びを楽しむ。 	遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽に合わせて歌ったり、踊ったりして表現することを楽しむ。 ・粘土、折り紙、のり、はさみなどの素材や用具を使い、保育者と一緒に作って遊ぶことを楽しむ。 ・散歩に出掛けることを喜び体を十分に動かして遊ぶ ・雪、氷、霜柱などの身近な自然に触れ、季節を感じて遊ぶ。 ・少しずつ身の回りの簡単な形や色などに関心をもつ。
健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・スプーンやフォークを使ってこぼさずに食べようとする。 ・保育者に見守られながら、一人で衣服の着脱をする。 ・尿意や便意を感じたら自分からトイレに行き、排せつする。 ・男児は立ち便器に慣れる。 ・室内や戸外で体を動かして遊ぶ。 ・好きな遊びを気の合う友達2、3人で楽しむ。 ・友達との関わりを通して、自分の思いを言葉や表情などで相手に伝えようとする。 ・保育者に気持ちを受け止めてもらい、気持ちを切り替えたり、待ったりしようとする。 						
人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と鬼ごっこや、簡単なルールのある遊びを楽しむ。 ・みんなの玩具を分け合ったり、順番に使ったりしようとする。 ・思ったことや感じたことを自分なりの言葉で伝えたり、保育者や友達とおしゃべりを楽しんだりする。 ・絵本や紙芝居の繰り返しの言葉やお話のおもしろさを感じ楽しむ。 ・保育者や友達と一緒に言葉のやり取りをしながら、絵本の登場人物になったり、経験したことを再現したりしてごっこ遊びを楽しむ。 						
遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽に合わせて歌ったり、踊ったりして表現することを楽しむ。 ・粘土、折り紙、のり、はさみなどの素材や用具を使い、保育者と一緒に作って遊ぶことを楽しむ。 ・散歩に出掛けることを喜び体を十分に動かして遊ぶ ・雪、氷、霜柱などの身近な自然に触れ、季節を感じて遊ぶ。 ・少しずつ身の回りの簡単な形や色などに関心をもつ。 						
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ○じっくり遊び込めるように、コーナーを作るなど環境の工夫をする。 ○遊びのイメージが膨らむような、様々な素材や用具を用意する。 ○身体を動かしたり、遊具を使って遊んだりすることが活発になるので危険のないよう設定をする。 						
保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ○身の回りのことを自分でしようとする気持ちを大切に、一人一人の発達に応じた援助をし、自分でできることの喜びと自信がもてるようにしていく。 ○子どもの言葉に耳を傾け、しっかりと向き合い、相づちを打ったり一緒に考えたりして共感し、話す喜びを育む。 ○絵本を通してイメージを膨らませたり、体験したことを表現したりして楽しく遊べるようにする。 ○幼児組の子どもの様子を見たり、一緒に遊んだりする機会を増やし、進級に期待がもてるようにする。 						
遊び絵本	<ul style="list-style-type: none"> ○一人でじっくり楽しむ遊び (パズル、ひも通し、チェーリング など) ○色々な素材を用いて表現する遊び (クレヨン、絵の具、粘土、のり、はさみ など) ○伝承遊び (ふくわらい、かるた、たこあげ など) ○手遊び「コンコンクシャン」「まめまき」「うれしいひなまつり」「ちいさなはたけ」「はる」など ○絵本「みんなうんち」「ちいさなねこ」「ちいさなうさこちゃん」「ちよっとだけ」など 						
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の子どもの成長を伝え、喜びを共有することで、保護者も進級への期待や安心感をもてるようにする。 ○幼児組への移行に伴い、登降園の仕方や持ち物など、変更が生じる事柄をきちんと伝え、不安のないよう配慮する。 						

トイレでおしっこ！大成功！

2歳3か月頃

ねらい：おむつが濡れていないときに、トイレに座ってみる。

基本的な運動機能の発達に伴い、排せつの自立のための身体的機能が整ってくる。

男の子は、立って排せつできるようになった子もいる。女の子も昼間は布パンツで過ごす子が増えてくる。また、パンツやズボンの着脱も上手になってきて一人でできたときには「みて、みて」と嬉しそうだ。

【★環境構成・○保育者の援助】

- ★子どもが好きなイラストや写真をトイレの壁に貼る。
- ★トイレは濡れたり汚れたりしないように常に清潔にする。
- タイミングをみてトイレに誘い、排尿できたら「できたね」と一緒に喜ぶ。

経験している内容

◆保育者に誘われてトイレに行き、見守られて排せつする。

◆❤️尿意や便意を感じたら保育者に伝え、自分からトイレに行こうとする。

◆健康・生活 ❤️人との関わり ●遊び



◆保育者に見守られながら、自分で衣服の着脱をしようとする。

今日は何になるのかな？

2歳5か月頃

ねらい：保育者や友達と言葉のやり取りをしながら、ごっこ遊びを楽しむ。

2歳児後半になってくると周囲を意識し始めて、大人のまねっこが大好きになる。

「まわし」をまいてお相撲さんと行司さんになりきり、「はっけよい」「のこった、のこった」と相撲ごっこが始まる。どっちが勝つのかな？

【★環境構成・○保育者の援助】

- ★なりきって遊べるような場や遊具を用意する。
- ★玩具や人形、ブロックなどの置き場所を決め、子どもが自分で出して遊べるようにする。
- 子どもが思い浮べたイメージに合わせて援助をし、楽しく遊べるようにする。

経験している内容

❤️●他児のやっている遊びをまねて、同じ遊びをしようとする。

❤️●保育者を仲立ちとして、少しずつ友達と関わって遊ぶことを楽しむ。

◆健康・生活 ❤️人との関わり ●遊び

●読んでもらった絵本や紙芝居の内容や生活体験から、イメージしたことを再現して遊ぶ。



ごはんができたよ！はい、どうぞ！

2歳7か月頃

ねらい：素材の感触をたっぷり味わい、見立てて遊ぶ。

砂場では、砂の感触を楽しみ、友達と遊ぶことが多くなる。保育者や友達に皿を持ってきて「どうぞ」「何作る？」「一緒にお買い物に行こうね」と言葉のやり取りを楽しんでいる。「ぼくはてっぺんをつくるね」「いいよ」とおしゃべりしながら、一緒にお山作りも楽しむ。

経験している内容

◆●固まったり崩れたりする砂の心地よい感触を味わって遊ぶ。

♡友達と同じことをまねたりして、友達に関心をもって遊ぶ。

♡●自分のしたいことを話し、保育者や友達と言葉のやり取りを楽しむ。

【★環境構成・○保育者の援助】

- ★扱いやすい大きさの入れ物や遊具をたくさん準備して、一人一人が遊び込めるようにする。
- ★片付けがしやすいように、玩具の分類ができる棚やかごなどを用意する。
- 遊びの中で興味をもって聞いてきたことに丁寧に応え、自分から楽しんだり、工夫したりできるようにする。

◆健康・生活 ♡人との関わり ●遊び



みてみて、じょうずでしょう

2歳9か月頃

ねらい：身体を使って表現しながら、いろいろな動きに挑戦する。

歩く・走る・跳ぶなどの基本的な運動機能が発達し、身体を思うように動かすことができるようになってくる。

ピアノに合わせて、亀になったり、アヒルになったりイメージを膨らませて、友達と同じ動きをすることを楽しんでいる。

経験している内容

●いろいろな動きを楽しみながら、もっとやってみたいという意欲が高まる。

♡●保育者や友達と一緒に体を自由に動かしたり、動きをまねたりする楽しさを感じる。

【★環境構成・○保育者の援助】

- ★自由に身体を動かし、なりきって遊べるような場を用意する。
- 身近な小動物を見たりお話を聞いたりしたことからイメージが膨らむような言葉掛けをする。
- 子どもが、伸び伸びと表現できたことを励まし、保育者も一緒に動いてみて、楽しさを共有する。

◆健康・生活 ♡人との関わり ●遊び



3歳児

だって、自分でできるもん！

1 発達の特徴

【運動機能の高まり】

基礎的な運動能力が育ち、歩く、走る、飛ぶ、押す、引っ張る、投げる、転がる、ぶら下がる、またぐ、蹴るなどの基本的な動作が一通りできるようになる。様々な動作や運動を十分に経験することにより、自分の体の動きをコントロールしたり、自らの身体感覚を高めたりしていく。

【基本的な生活習慣の形成】

運動能力の発達に伴い、食事・排せつ・衣類の着脱など、基本的な生活習慣がある程度自立できるようになり、不完全ながらも箸を使って食べようとしたり、排せつや衣類の着脱などを自分からしようとしたりする。基本的な生活習慣がある程度自立することにより、子どもの心の中には、「何でも自分でできる」という意識が育ち、大人の助けを拒むことが多くなる。自分の意思で生活を繰り広げようとすることは、子どもの主体性を育み、意図をもって行動することや、自分の生活を律していくことにつながる。

【言葉の発達】

子どもが理解する語彙数が急激に増加し、日常生活での言葉のやり取りが不自由なくできるようになる。「おはよう」、「ありがとう」などの人と関わる挨拶の言葉を自分から使うようになり、言葉を交わす心地よさを体験していく。言葉の獲得を通し、知的興味や関心が高まり、「なぜ」、「どうして」といった質問を盛んにするようになる。

【友達との関わり】

この時期の遊びの多くは場を共有しながらそれぞれが独立して遊ぶ、いわゆる平行遊びだが、平行して遊びながら他の子どもの遊びを模索したり、遊具を仲立ちとして子ども同士で関わったりする姿もある。時には遊具の取り合いからけんかになることもあるが、徐々に友達と分け合ったり、順番に使ったりするなど、決まりを守ることを覚え始める。

【ごっこ遊びと社会性の発達】

自分のことを「わたし」、「ぼく」と言うなど自我が成長するにつれて、自分についての認識と同時に、家族、友達、先生などとの関係が分かり始める。周囲への関心や注意力、観察力が伸びて、気付いたことを言葉で言ったり、遊びに取り入れたりしながら人との関わりを育んでいく。

様々な遊具を手にして夢中で遊んだり、イメージを広げながらごっこ遊びを楽しんだりするが、その中で、身の回りの大人の行動や日常の経験を取り入れて再現するようになる。こうした遊びを繰り返しながら、様々な人や物への理解を深め、予想や意図や期待を持って行動するなど社会性を育んでいく。

(「保育所保育指針解説書」参照)

2 経験させたい保育内容

<健康・生活>

- ・食事、排せつ、衣服の着脱など身の回りのことをする。
- ・楽しい雰囲気の中で、様々な食べ物を進んで食べようとする。
- ・様々な遊びに興味をもち、保育者や友達と楽しく体を動かす。
- ・危ない場所や遊び方を知り、気を付けようとする。

<人との関わり>

- ・困ったことやしてほしいことなどを簡単な言葉で保育者や友達に伝えようとする。
- ・保育者や友達と関わりながら、一緒に楽しく遊ぶ。
- ・遊具や用具などの貸し借りをする。また順番を待ったり交代したりして遊ぶ。

<学びの芽生え>

- ・身近な草花や小動物、自然現象に興味をもって関わる。
- ・身近な行事を体験し、模倣したり自分なりに表現したりして遊ぶことを楽しむ。
- ・絵本や紙芝居を、繰り返し見たり聞いたりしてお話の世界を楽しむ。
- ・身近な素材や用具を使って、自由に描いたり作ったりなど、表現して遊ぶ。
- ・保育者と一緒に歌ったり、音楽に合わせて体を動かしたりする楽しさを知る。

3 家庭との連携

○基本的な生活習慣を身に付ける大切さを伝える

- ・生活リズムを整えることの大切さを知らせていく。（早寝・早起き・朝ごはん）
- ・生活習慣は、子どもが一人でできるようになるまで大人が見守り、できないところに手を貸したり、励ましたり認めたりしながら、楽しく根気強く関わっていくことの大切さを伝えていく。
- ・衣服の着脱や排せつがスムーズにできるように、着脱しやすい衣服を選ぶよう伝えていく。
- ・家庭においても、子どもが自分のことを自分でしようとしている姿を認め、大切に見守り、時間が掛かっても待ったり、励ましたり、褒めたりして関わることの大切さを知らせていく。
- ・進級などで生活環境が変わるときには、子どもの不安や期待、甘えを温かく受け止める大切さを伝えていく。

○子どもの思いを丁寧に受け止めることの大切さを伝える

- ・自ら伝えたいという意欲を引き出すため、子どもの表現を温かく受け止めることの大切さを伝えていく。
- ・家庭においても、子どもがいろいろと知りたがって尋ねてくることに対して、面倒がらずに答えたり、一緒に考えたりなど、優しく関わることの大切さを伝えていく。
- ・自己主張や自立心が強くなるが、甘えたい気持ちもあるので、温かく受け止めるように伝えていく。

3歳児 I 期（4月～5月）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○保育者との関わりを基盤にして新しい環境に慣れ、安心して過ごす。 ○好きな遊具や気に入った場所を見つけて遊ぼうとする。 ○身の回りのことや自分でできそうなことを、保育者と一緒に行いながら新しい場での生活の仕方を知る。 	
経験する内容	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・一日の生活の流れを知り、保育者と一緒に身の回りのことをしようとする。 ・保育者の声掛けで、排せつや手洗いなどを自分でしようとする。 ・保育者に見守られ、自分で食事をする。 ・新しい保育室の遊具や用具などに触れて使い方を知る。 ・戸外で身近な遊具に触れたり、保育者と一緒に遊んだりする。
	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者との触れ合いを通して、安心して園生活を過ごす。 ・保育者や友達の名前や顔を覚え、親しみをもつ。 ・困ったことやしてほしいことなどを、言葉、表情、動きなどで表わす。 ・保育者にやりたいことを伝えようしたり、保育者の声掛けに応えたりする。 ・周りにいる友達の中で、安心して自分のやりたいことをして遊ぶ。
	学びの芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・春の自然物に興味をもち、見たり触れたり使って遊んだりする。 ・挨拶や「入れて」「貸して」「後で」などの意味が分かり、使ってみる。 ・保育者と一緒に絵本や紙芝居を楽しむ。 ・身近にある遊具を使って、見立てたり、つもりになったりして遊ぶ。 ・思いのままに描いたり作ったりしようとする。 ・歌や手遊びを楽しんだり、リズムや音楽に合わせて体を動かしたりする。 ・鬼遊び、追い掛けっこなど簡単なルールのある遊びをする。
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ○新しい環境で自分の生活する場所や物が分かるように、個別のマークを付けるなどして安心して生活できるようにする。 ○興味のある遊具や絵本、親しみのある音楽を用意するなど、明るく楽しい雰囲気づくりをする。 ○トイレの使い方やロッカーの使い方、遊具や荷物の置き場所などを絵に描いて表示するなどして分かりやすくする。 	
保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ○月齢差、進級、新入など、経験や生活の流れの違いを考慮して、一人一人が安心して過ごせるように接していく。 ○新しい環境に慣れるように、温かい態度で接しながら、手を添えたり繰り返し知らせたりして、個人差に配慮した援助を行うようにする。 ○好きな遊びを見付けられるように一緒に遊んだり、興味をもてるような誘い掛けをしたりする。 ○新しい環境で不安や緊張を感じている様子が見られる場合は、好きな遊具や場所を見つけて遊びを楽しめるように、子どもの様子を見て援助する。 	
遊び教材 絵本	<ul style="list-style-type: none"> ○遊び慣れた遊具（ぬいぐるみ、積木、ブロック、ままごと 等） ○春の自然物（アリ、ダンゴムシ、チューリップやサクラなどの花びら 等） ○保育者や友達と楽しむ遊び（わらべ歌、手遊び、体操 等） 「きんぎょがにげた」「おでかけのまえに」「おおきなかぶ」「めのまどあけろ」 「いちご」「はらぺこあおむし」「あっちゃんあがつく」「さる・るるる」「かぼくん」 「ころちゃんはだんごむし」 	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○進級・入園による喜びや不安を受け止め、園の様子を伝えるとともに、家庭での様子を聞き子どもも保護者も安心して園生活を楽しむことができるようにする。 ○身の回りのことを自分でやってみようという気持ちをもてるよう、子どもの扱いやすいものを用意してもらうと同時に、家庭でも自分でする時間を十分にとり、見守ることの大切さを伝える。 	

先生と一緒にやってみよう！

自分のマーク、うれしいな！（4月）

ねらい：生活の仕方を知って、身の回りのことをやってみる。

新しい生活や環境に期待をもっているものの、不安で自分からは動き出せないこともある。所持品の始末や身支度を保育者と一緒にいたり、周囲の友達が遊んでいる様子を見たりして、少しずつ慣れていく様子が見られる。次第に自分のマークや場所、遊具の使い方などを覚え、安心して過ごせるようになっていった。

【★環境構成・○保育者の援助】

- ★自分の生活する場所や物が分かるように、靴箱やロッカーなどに個別のマークを付ける。
- 温かい態度で手を添えたり繰り返し知らせたりして、個人差に配慮した援助を行う。
- 生活の流れを具体的に知らせて、安心して過ごせるようにする。

経験している内容

◆健康・生活 ♥人との関わり ●学びの芽生え

◆身の回りのことを自分でしようとする。

◆♥園生活に必要なことを保育者と一緒に行ったり、友達の動きを見て気付いたりする。



♥●みんなで過ごすために必要な約束を知る。

●自分の物、他人の物、共同の遊具などの区別が分かり大切にしようとする。

大きな山をつくろう！（5月）

ねらい：保育者に見守られながら、そばにいる友達の中で自分なりに動く。

「お砂やりたい！」と砂場で遊び始める。砂場用のシャベルを手に、砂を掘っては積み上げながら砂の感触を楽しんでいる。サラサラと砂がこぼれる様子や、トントンとたたいて徐々に固まる様子を、繰り返し確かめている。「お山作ろう」とそばにいた友達に声を掛け、同じ場所に一緒に砂山を作り始めた。保育者に「すごい！大きなお山だね！」と褒められると「もっとやろう！」と大きな声を出して盛り上がる。保育者とのつながりを感じつつ、友達の中で安心して自分のやりたいことを楽しむ様子が見られる。

【★環境構成・○保育者の援助】

- ★一人一人が十分なスペースで満足して遊べるよう場所を広めに設定する。
- ★様々な使い方が楽しめる遊具や容器を用意して遊びを広げていく。
- ★水を使う場合もあるので、あらかじめタライに水を用意し自由に使えるようにする。
- 砂遊びに抵抗のある子どもに対しては、保育者が一緒に砂を触ってみることから始め、徐々に慣れていけるようにする。
- 開放的に遊べるような雰囲気をつくる。

経験している内容

◆健康・生活 ♥人との関わり ●学びの芽生え

◆しゃがんだり、他の子とぶつからないように動いたりして遊ぶ。

◆●積み上げて高くなっていく喜びや開放感を味わう。



♥●同じ場にいる保育者や友達のしていることに、興味をもちやってみる。

●砂の感触を知り、自分から興味のある遊び方に取り組む。

3歳児 II 期（6月～8月）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な環境や様々な活動に興味や関心をもち、関わって遊ぼうとする。 ○同じ場所にいる友達や一緒にいたい友達と関わることを楽しむ。 ○身の回りのことや自分でできることをしようとする。 						
経験する内容	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">健康・生活</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・一日の生活の流れが分かり、安心して生活する。 ・所持品の始末や身支度の仕方、トイレの使い方が分かり、自分でやろうとする。 ・濡れたり汚れたりしたら気持ちが悪いと感じ、自分で着替えようとする。 ・保育者や友達と楽しんで食事をする。 ・保育者の言葉掛けから、危ない場所や行ってはいけないところを知る。 ・戸外で遊ぶことを喜び、身近な遊具で遊んだり保育者と関わったりして楽しむ。 ・水に親しみ、開放感を味わう。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">人との関わり</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の動きをまねたり、同じように遊んだりすることを喜ぶ。 ・クラスの友達と一緒に、楽しく誕生会や季節行事などの集会に参加する。 ・生活や遊びの中で必要な約束や簡単なルールが分かる。 ・自分の思いを言葉や動き、表情で保育者や友達に伝えようとする。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">学びの芽生え</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然物に興味をもち、触れたり保育者と一緒に世話をしたりする。 ・保育者や友達と挨拶を交わしたり、思ったことを話したりする。 ・保育者の読む絵本や紙芝居に親しむ。 ・自分のしたい遊びや、気に入った遊具や場所を見つけて繰り返し遊ぶ。 ・身近にあるいろいろな素材に触れて、思うように作ったり見立てたりして遊ぶ。 ・土や砂を使って遊び、感触を楽しむ。 ・知っている歌や自分の好きな歌を歌ったり、音に合わせて体を動かしたりする。 </td> </tr> </table>	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・一日の生活の流れが分かり、安心して生活する。 ・所持品の始末や身支度の仕方、トイレの使い方が分かり、自分でやろうとする。 ・濡れたり汚れたりしたら気持ちが悪いと感じ、自分で着替えようとする。 ・保育者や友達と楽しんで食事をする。 ・保育者の言葉掛けから、危ない場所や行ってはいけないところを知る。 ・戸外で遊ぶことを喜び、身近な遊具で遊んだり保育者と関わったりして楽しむ。 ・水に親しみ、開放感を味わう。 	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の動きをまねたり、同じように遊んだりすることを喜ぶ。 ・クラスの友達と一緒に、楽しく誕生会や季節行事などの集会に参加する。 ・生活や遊びの中で必要な約束や簡単なルールが分かる。 ・自分の思いを言葉や動き、表情で保育者や友達に伝えようとする。 	学びの芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然物に興味をもち、触れたり保育者と一緒に世話をしたりする。 ・保育者や友達と挨拶を交わしたり、思ったことを話したりする。 ・保育者の読む絵本や紙芝居に親しむ。 ・自分のしたい遊びや、気に入った遊具や場所を見つけて繰り返し遊ぶ。 ・身近にあるいろいろな素材に触れて、思うように作ったり見立てたりして遊ぶ。 ・土や砂を使って遊び、感触を楽しむ。 ・知っている歌や自分の好きな歌を歌ったり、音に合わせて体を動かしたりする。
健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・一日の生活の流れが分かり、安心して生活する。 ・所持品の始末や身支度の仕方、トイレの使い方が分かり、自分でやろうとする。 ・濡れたり汚れたりしたら気持ちが悪いと感じ、自分で着替えようとする。 ・保育者や友達と楽しんで食事をする。 ・保育者の言葉掛けから、危ない場所や行ってはいけないところを知る。 ・戸外で遊ぶことを喜び、身近な遊具で遊んだり保育者と関わったりして楽しむ。 ・水に親しみ、開放感を味わう。 						
人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の動きをまねたり、同じように遊んだりすることを喜ぶ。 ・クラスの友達と一緒に、楽しく誕生会や季節行事などの集会に参加する。 ・生活や遊びの中で必要な約束や簡単なルールが分かる。 ・自分の思いを言葉や動き、表情で保育者や友達に伝えようとする。 						
学びの芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然物に興味をもち、触れたり保育者と一緒に世話をしたりする。 ・保育者や友達と挨拶を交わしたり、思ったことを話したりする。 ・保育者の読む絵本や紙芝居に親しむ。 ・自分のしたい遊びや、気に入った遊具や場所を見つけて繰り返し遊ぶ。 ・身近にあるいろいろな素材に触れて、思うように作ったり見立てたりして遊ぶ。 ・土や砂を使って遊び、感触を楽しむ。 ・知っている歌や自分の好きな歌を歌ったり、音に合わせて体を動かしたりする。 						
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ○安全に水遊びができるように用具の準備や点検、周辺の整備をする。 ○砂や水を使って伸び伸びと遊べるように身支度を整える。足洗い場や着替えの場を子どもが分かりやすいように設定しておく。 ○興味をもった遊びを楽しめるように、遊びの場が混在しないような設定を工夫する。 ○植物の生長がよく見えるような場をつくる。 						
保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の発達を丁寧に捉え、必要に応じて手助けしたり励ましたりして、子どもが自分でやってみたいという意欲が育つようにする。 ○様々な素材に関わり開放感を味わいながら遊び、自分の思いを十分に出せるようにする。 ○水遊びが十分楽しめるよう、家庭との連絡をとり、体調の変化に気を配る。 ○遊びへの興味が広がるように、保育者が入って楽しさを共感したり、他の子どもとの遊びの仲立ちをしたりする。 ○暑さで日中の遊びの疲れが出やすいため体調に留意し、自分から遊びや休息の場を選んで過ごせるような落ち着いた雰囲気をつくる。 						
遊び教材絵本	<ul style="list-style-type: none"> ○感触を楽しむ素材（水、砂、土、泥、小麦粉粘土、フィンガーペインティング等） ○水遊びを楽しむための補助教材（ジョウロ・ジョウゴ・カップ・ざる・ペットボトル等） ○体を伸び伸びと動かす遊び（体操、ボール遊び、巧技台を使ったサーキット等） 「おばけのてんぷら」「めがねうさぎ」「どろだんご」「じゃぐちをひねると」 「ぞうくんのさんぽ」「やさいのおなか」「うんちはどうしてでるの」 「たろうのおでかけ」 						
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○暑い中でも健康に過ごせるよう、食事・睡眠・休息などの生活リズムの安定や夏季の過ごし方について知らせる。 ○園生活の中で、身の回りのことを自分でしている姿を伝え、家庭でも自分でしたがることは時間に余裕をもって見守るよう、具体的な方法とともに知らせていく。 ○保育参観などの機会をもち、我が子の様子を見て安心したり園のよさを感じたりできるようにする。 						

いろいろなこと、やってみたい!

ごっこ遊び大好き! (6月)

ねらい: 自分の感じたことや思ったことを表現して遊ぶ。

歯科検診を経験し、歯医者さんになって遊ぶ姿が見られるようになった。ブロックなど遊具を歯医者さんの道具に見立て、「お口を開けてくださいね」「アーン」「はい! 虫歯はありませんでした」身近な体験の中で、見たり聞いたり感じたりしたことを、遊びの中に取り入れて表現している。

【★環境構成・○保育者の援助】

- ★遊びの中で、見立てたり、なりきったりして遊ぶ楽しさを感じられるよう、扱いやすい素材や用具など、十分な数を用意する。
- 保育者も一緒に遊び、子どもの表現に役になって応じながら、楽しい雰囲気づくりをしていく。
- 一人一人の思いを丁寧に受け止め、遊びの楽しさに共感していく。

経験している内容

◆生活習慣に関心を持ち、身の回りのことを自分でしようとする。

◆●遊びの中で、言葉でやり取りする楽しさを味わう。



◆健康・生活 ♥人との関わり ●学びの芽生え

♥自分の感じたことや見立てたことを友達に話し、応じてもらうことを喜ぶ。

●身近な素材や遊具を使って、作ったり見立てたりして遊ぶ。

ピーマン食べたよ! (7月)

ねらい: 身近な栽培物に関心を持ち、見たり、触れたりする。

春に植えたピーマンの苗。プランターを保育室の前に置き、みんなで世話をしながら見守ってきた。部屋の前に置いたことで送迎時に親子で一緒に見ることができ、関心を高めている様子があった。

収穫したピーマンは調理して一口ずつ食べてみた。ピーマンが苦手な子も、栽培に関わったことで、「食べてみよう」という気持ちが芽生えたようだ。自ら進んで口に入れ「おいしい」「ちょっと苦い、でもおいしい」「お家でも食べたい」という言葉が聞かれた。

【★環境構成・○保育者の援助】

- ★植物や野菜などを生長がよく見える場所に置き、保育者と一緒に世話をしながら親しみがもてるようにする。
- 保育者も収穫の喜びに共感していく。
- 収穫した野菜を通して食への関心や期待を高めていく。
- 家庭で食した際には、感想やエピソードをもらって、壁新聞にする。



(壁新聞の例)

経験している内容

◆収穫した野菜を食べることに期待を持ち、味わって楽しく食べる。

◆●栽培物に興味を持ち、保育者と一緒に、触れたり世話をしたりしようとする。



◆健康・生活 ♥人との関わり ●学びの芽生え

♥●保育者と一緒に栽培物の世話をし、共に生長を楽しむにする。

●葉や実の形、色や匂いなどに関心をもつ。

3・4・5歳児夏季保育（7月下旬～8月）

ねらい	<p>○夏の生活の仕方が分かり、友達や保育者と一緒に安心して過ごす。</p> <p>○いろいろな友達と関わりながら、自分の気持ちを表現して遊ぶ。</p> <p>○自分のやりたい遊びを十分に楽しみながら、夏の自然を感じる。</p>	
経験する内容と配慮事項	健康・生活	<p>○プール遊びを通して、戸外で遊ぶ楽しさや、水の気持ちよさを感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の楽しさ、休息の快さを十分に味わう。 ・ゆったりとした環境の中で安心して遊びが楽しめるように、活動の調整をする。 ・午睡の時間を取るなど体を休めることができるような時間や場を作る。 <p>○友達と一緒に栽培物を収穫したり食べたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏野菜の収穫を喜び、皆で味わう体験を通して、食べる喜びを味わえるようにする。
	人との関わり	<p>○友達と一緒に好きな遊びを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気の合う友達とかたまってゆっくり遊べる時間や場所を保障する。 ・休み明けの幼児に遊びの様子や活動の流れを丁寧に伝え、安心して遊べるようにする。 <p>○異年齢の友達と関わって遊び、親しみをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで一緒に遊ぶ楽しさを感じられるような遊びを取り入れていく。 ・遊びのルールや考え方を調整し、異年齢で遊ぶ楽しさを感じられるようにする。 ・3歳児が疲れすぎないように活動の様子を見守ったり、早めに休息を取らせたりする。
	学びの芽生え	<p>○友達と一緒に昆虫の飼育や植物の世話をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飼育物の様子や野菜の成長に気付かせたり、気が付いたことをクラス全体に知らせたりしながら関心がもてるようにする。 <p>○色水やシャボン玉など、夏ならではの遊びを繰り返し楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色の変化の面白さに気付かせたり、周りの幼児に声を掛け友達の遊びに気付かせたりする。
環境構成	<p>○一人一人の子どもの様子に気を配り、室内の温度に配慮したり水分補給を促したりする。</p> <p>○異年齢児が園庭や保育室で一緒に遊んだり、自分たちで場を作って遊んだりできるように衝立やござ、積木、ベンチ、ビールケースなどを用意する。</p> <p>○虫かご、虫めがね、シャベルなどを使いやすい場所に準備する。</p> <p>○自然の事象に興味や関心がもてるように、生物、昆虫、宇宙、夏の自然などの絵本や図鑑を準備し、見やすく配置する。</p> <p>○園庭の木陰などにベンチやござを用意するなど、ゆっくりくつろげるコーナーを作る。</p> <p>○地域社会に関心がもてるように、行事や場所の写真や地図を貼ったりする。</p>	
遊び教材絵本	<p>○プール遊び・水遊び（ビニールプール・組み立て式プール・水鉄砲・色水遊び・シャボン玉・ペットボトルシャワーなど）</p> <p>○自然と関わる遊び（飼育物の世話・栽培物への水やり・収穫・虫探し・色水遊びなど）</p> <p>○地域行事（お祭りや縁日など）、地域の施設（図書館、ふれあい館など）の利用など、地域の資源を活用し、様々な体験ができるようにする。</p> <p>「なつまつり」「ゆうすずみ」「おばけちゃん」「あがりめさがりめ」「ねないこだれだ」 「はけたよはけたよ」「ぐりとぐらのかいすいよく」「おーなみこなみさぶん!」 「おばけのおつかい」「うたえほん」「かえるのレストラン」「なつやさいのなつやすみ」 「うらしまたろう」「おふろだいすき」「こんとあき」</p>	
家庭との連携	<p>○プールカードなどへの記入を依頼し、健康状態を十分に把握し安全に遊べるようにする。</p> <p>○夏の暑さから疲れが出やすいので、家庭でも食事や睡眠等生活リズムを整えることの大切さを伝える。</p> <p>○熱中症や感染症について等、夏の健康に必要な情報を伝える。</p> <p>○夏季保育ならではの経験を具体的に伝えていく。</p>	

夏を楽しむ！

いろいろなおもちゃを作って遊ぶ（7月～8月）

ねらい：身近な素材に親しみ、作って遊ぶ楽しさを味わう

お菓子の空き箱を使って作って遊ぶ姿が見られる。工夫を楽しむ様子が見られるので、簡単な仕掛けのあるおもちゃを提案する。その動きの面白さを生かして作って遊べるおもちゃを、コーナーに分かれて製作する。でき上がった玩具で友達と一緒に楽しむ。

【★環境構成・○保育者の援助】

- ★コーナーごとに様々なおもちゃの材料を用意し、分かりやすく机に配置する。
- ちょっとした仕掛けのあるおもちゃを提案することで「なぜ・どうして」に気付かせる。
- 飛ばしたり回したり投げたりするので、空間を十分にとり、安全面に配慮する。

経験している内容



- 学びの芽生え
- ♡ 人との関わり
- ◆ 健康・生活



- 興味や関心をもち、自分から取り組む。
- 作り方の説明を聞き、分からないことは確認しながら、自分なりに工夫して作ることを楽しむ。

- ♡ 友達と一緒にでき上がったおもちゃで遊び、面白さを共有する。

- ◆ 安全に道具を使用し、使用後は一定の場所に片付ける。

“夏ならではの”を楽しもう！（7月～8月）

ねらい：夏の自然に関わったり、遊びの経験を広げたりして楽しむ。



＜水遊び＞ プール、ペットボトルの手作り玩具、色水、シャボン玉、フィンガーペインティング、泥んこなど繰り返し試して楽しめるようにする。



＜異年齢で遊ぼう＞

好きなお部屋で自由に遊んだり、年長組が考えた「おばけ屋敷ごっこ」をしたりして異年齢との交流を楽しむ。

＜流しそうめんごっこ＞

牛乳パックで流れる台を作り、トウモロコシのひげをそうめんに見立て“流しそうめんごっこ”を楽しむ。子どもたちの体験と発想から生まれた夏ならではの遊び。

3歳児 Ⅲ期（9月～10月）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○保育者や友達と、伸び伸びと体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ○みんなで一緒に活動する中で、約束やルールがあることを知る。 ○友達や異年齢児の様子に興味をもち、関わって遊ぼうとする。 						
経験する内容	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">健康・生活</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのことを自分でしようとする。（手洗い、うがい、衣服の着脱、排せつなど） ・季節や活動に応じて衣類の調節を自分でしようとする。 ・危ない場所や遊び方を知り、気を付けようとする。 ・保育者や友達と伸び伸びと体を動かして遊ぶ。 ・保育者と一緒に使った遊具や用具を片付けようとする。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">人との関わり</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・したいことや感じたことなど、気持ちを保育者に受け止めてもらい安心して遊ぶ。 ・簡単なルールのある遊びの中で、自分なりに動く。 ・異年齢児の行動をまねたり、興味をもって遊ぶ。 ・一緒にいたい友達ができ、自分から関わろうとする。 ・自分の物、他の人の物、みんなの物の違いが分かる。 ・自分の思ったことを言葉や行動、表情などで、自分なりに表現しようとする。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">学びの芽生え</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験したことや感じたことを、保育者に話そうとする。 ・自然物に興味や関心をもち、草花や虫に関わって遊ぶ。 ・絵本や紙芝居を繰り返し見たり聞いたりする。 ・自分で作ったものを使って遊ぶ。 ・いろいろな場面で「なぜ」「どうして」などの質問をする。 ・リズムに合わせて、踊ったり歌いながら体を動かすことを喜ぶ。 </td> </tr> </table>	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのことを自分でしようとする。（手洗い、うがい、衣服の着脱、排せつなど） ・季節や活動に応じて衣類の調節を自分でしようとする。 ・危ない場所や遊び方を知り、気を付けようとする。 ・保育者や友達と伸び伸びと体を動かして遊ぶ。 ・保育者と一緒に使った遊具や用具を片付けようとする。 	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・したいことや感じたことなど、気持ちを保育者に受け止めてもらい安心して遊ぶ。 ・簡単なルールのある遊びの中で、自分なりに動く。 ・異年齢児の行動をまねたり、興味をもって遊ぶ。 ・一緒にいたい友達ができ、自分から関わろうとする。 ・自分の物、他の人の物、みんなの物の違いが分かる。 ・自分の思ったことを言葉や行動、表情などで、自分なりに表現しようとする。 	学びの芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験したことや感じたことを、保育者に話そうとする。 ・自然物に興味や関心をもち、草花や虫に関わって遊ぶ。 ・絵本や紙芝居を繰り返し見たり聞いたりする。 ・自分で作ったものを使って遊ぶ。 ・いろいろな場面で「なぜ」「どうして」などの質問をする。 ・リズムに合わせて、踊ったり歌いながら体を動かすことを喜ぶ。
健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのことを自分でしようとする。（手洗い、うがい、衣服の着脱、排せつなど） ・季節や活動に応じて衣類の調節を自分でしようとする。 ・危ない場所や遊び方を知り、気を付けようとする。 ・保育者や友達と伸び伸びと体を動かして遊ぶ。 ・保育者と一緒に使った遊具や用具を片付けようとする。 						
人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・したいことや感じたことなど、気持ちを保育者に受け止めてもらい安心して遊ぶ。 ・簡単なルールのある遊びの中で、自分なりに動く。 ・異年齢児の行動をまねたり、興味をもって遊ぶ。 ・一緒にいたい友達ができ、自分から関わろうとする。 ・自分の物、他の人の物、みんなの物の違いが分かる。 ・自分の思ったことを言葉や行動、表情などで、自分なりに表現しようとする。 						
学びの芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験したことや感じたことを、保育者に話そうとする。 ・自然物に興味や関心をもち、草花や虫に関わって遊ぶ。 ・絵本や紙芝居を繰り返し見たり聞いたりする。 ・自分で作ったものを使って遊ぶ。 ・いろいろな場面で「なぜ」「どうして」などの質問をする。 ・リズムに合わせて、踊ったり歌いながら体を動かすことを喜ぶ。 						
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ○身の回りのことが、自分でできるような時間や場を保障し、必要に応じて援助する。 ○戸外での活動や散歩などを通して自然に触れ、季節の変化を感じられるようにする。 ○全身を使った遊びを、繰り返し楽しむ機会を作るとともに、水分補給や体を休める場を設定する。 ○遊具や用具、素材は、数量や安全性に配慮して用意する。 						
保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ○身の回りのことを自分からしようとする姿を受け止め、認めたり褒めたり見守ったりする中で、自信がもてるようにしていく。 ○運動会に向かう活動など体を動かして遊んだ後は、室内でゆったりと落ち着いて過ごせるような場や雰囲気を作る。 ○思いを言葉で表現できるよう、時には気持ちを代弁して伝え方を知らせたりする。 ○虫や草花の絵本や図鑑を身近に置いて、興味や関心がもてるような働き掛けをする。 ○一緒に体を動かして楽しさを伝えながら、一人一人の状態を把握して援助していく。 ○ルールを理解できるよう丁寧に説明し、一緒に遊びながら伝える。 						
遊び教材 絵本	<ul style="list-style-type: none"> ○秋の自然物を取り入れた遊び（落ち葉、ドングリ、マツボックリなど） ○伝承遊び（「だるまさんがころんだ」や「あぶくたった」など） 「わたしのワンピース」「パンやのくまさん」「つきのぼうや」「ぐりとぐら」 「からだのなかでドゥンドゥンドゥン」「くれよんのくろくん」「きつまのおいも」 「どうぞのいす」「そらまめくんのベッド」「ねないこだれだ」「おだんごぼん」 						
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○運動会などの行事を通し、子どもの成長を知らせるとともに保護者同士の交流を促す。 ○行事等の取組や成長は個人差があることを伝え、その子なりの成長が感じられるようにする。 ○他の年齢の子どもの活動を見てもらい、成長への見通しや期待をもってもらおう。 ○夏の疲れが出やすく、朝夕涼しくなるので、衣服の調整や体調管理を呼び掛ける。 ○着替えや排せつがしやすいよう、自分で着替えやすい服装を着てくるよう依頼する。 						

体を動かして遊ぼう！

全身を使った運動遊びを楽しむ（9月）

ねらい：保育者に見守られながら、体を動かす楽しさを感じる。

戸外で遊ぶ機会が多くなり、園庭ではかけっこや鉄棒などで積極的に体を動かして遊ぶ様子が見られる。鉄棒にぶら下がってみたり、前回りをしてみたり、各々ができるようになったことを、嬉しそうに繰り返しやっている。「すごいね、そんなことができるようになったの！」と認めると「見て見て！僕もできるよ！」と、他の子どもも繰り返しやって見せる。

【★環境構成・○保育者の援助】

- ★思い切り走ったり、体を動かしたりできるよう、十分な空間を確保する。
- 子どもの動きに合わせて動いたり、楽しさを言葉にしたりして、保育者も共に楽しむ。
- 子どもが繰り返しやっている姿を応援したり、その子なりに取り組んでいる姿を認めたりしていく。

経験している内容

◆健康・生活 ♥人との関わり ●学びの芽生え

- ◆走る、跳ぶ、遊具を使うなど、様々な体を動かす楽しさを感じる。
- ◆♥友達と一緒にかけっこをすることを喜ぶ。



- ♥●保育者がそばにいて安心して自分のやりたいことに繰り返し取り組む。

- ♥保育者にできるようになったことを見せる。

- 自分なりに繰り返しやってみる。
- できるようになった喜びを感じる。

まてまて、しっぽ！しっぽ取り鬼（10月）

ねらい：保育者や友達と一緒に、ルールのある遊びを楽しむ。

紙テープを適当な長さに切りズボンの腰に挟む。「しっぽ取りしましょう！」保育者の声掛けで、しっぽをつけた子どもたちが嬉しそうに駆け回る。鬼役の子どもたちが保育者と一緒に「1・2・3・4…」と10まで数えてから追い掛け出す。鬼に捕まらないようにしっぽを短く出している子どももいる。また、鬼役の子にしっぽを抜き取られると、「わあ！」「きゃあ！」と、どちらも歓声を上げて喜ぶ姿が見られる。

【★環境構成・○保育者の援助】

- ★体を動かす楽しさを感じられるように、思い切り走ることのできる空間を確保する。
- ★何度でも繰り返し楽しめるように、扱いやすい紙テープでしっぽの数を調整する。
- 保育者が一緒に鬼や逃げる役になって遊び、ルールを知らせ、合図や追いかけるタイミングを調整する。
- 保育者も一緒に遊びながら、楽しさを言葉にして伝える。

経験している内容

◆健康・生活 ♥人との関わり ●学びの芽生え

- ◆思い切り体を動かす楽しさを感じる。



- ♥保育者と一緒に遊ぶことで、安心して自分らしさを出して楽しむ。

- ♥保育者や友達と一緒に動く楽しさを味わう。

- ◆●♥遊び方や簡単なルールが分かって動く。

3歳児 IV期（11月～12月）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○園生活に必要なことが分かって、自分でしようとする。 ○自分の好きな遊びをしたり、友達のしていることに興味をもち、一緒に遊ぶ楽しさを感じる。 ○経験したこと、感じたこと、想像したことなどを自分なりに表現することを楽しむ。
健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗いやうがい大切さを知り、自分でしようとする。 ・危ない場所や遊び方を知り、気を付けようとする。 ・様々な食べ物を進んで食べようとする。 ・保育者や友達と一緒に、リズム遊びや体を動かす遊びを楽しむ。（走る、踊る、跳ぶ、投げるなど）
経験する内容	<div style="background-color: #f0e6ff; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold;">人との関わり</div> <ul style="list-style-type: none"> ・行事や生活の中で、異年齢児と触れ合うことを楽しむ。 ・保育者や友達と簡単なルールのある遊びを楽しむ。 ・保育者や友達がしている遊びに興味をもち、一緒にやってみようとする。 ・言葉のやりとりを楽しみ、生活に必要な言葉を使う。 ・自分の気持ちや困っていること、してほしいことなどを自分なりの言葉や方法で伝えようとする。
学びの芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・自然物に関わり、見立てたり、それを使って遊んだりする。（落ち葉や木の実など） ・好きなものになりきったり見立てたりして、自分なりのイメージを表現して遊ぶ。 ・風の冷たさや息の白さなど、季節の変化を感じる。 ・好きな絵本や紙芝居ができて、何度も読んでもらったり見たりして楽しむ。 ・身近な物の色、形、多い、少ないなどの違いに気付く。 ・身近な素材や用具を使って、好きなように描いたり作ったり遊んだりする。 ・カスタネットや鈴、手作り楽器などで遊び、自由に鳴らしたり音色を楽しんだりする。
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ○繰り返しのストーリーの面白さが味わえるような絵本を置き、保育者や友達と一緒に絵本に親しんだりできるようにする。 ○友達と同じ場でなりきって遊べるように、仕切りや積木など十分に用意しておく。 ○子どもが自由に自然物に触れることができるよう、室内にドングリや落ち葉、松ぼっくりなど自然物のコーナーを作り、子どもが持ってきたものを置けるようにする。
保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ○身の回りのことを自分でしようとする姿を見守り、励ましたり褒めたり認めたりしながら、自分でできた気持ちよさが感じられるようにする。 ○子どもの思いや見立てなどを受け止める。 ○保育者も遊びに入りながら仲立ちし、友達と遊ぶ楽しさに共感していく。 ○トラブルが起きたときには、一人一人の気持ちを受け止め、相手の思いも伝えていく。
遊び教材 絵本	<ul style="list-style-type: none"> ○見立て遊び、ごっこ遊び、劇遊び ○伝承遊び、わらべうた、手遊び、折り紙 ○体を使った遊び（体操、運動遊び、ボール遊び、巧技台等を使ったサーキット） 「ももたろう」「てぶくろ」「ふゆですよ」「コッコさんのおみせ」 「さむがりやのサンタ」「はじめてのゆき」「はーくしよい」 「三びきのやぎのがらがらどん」「だるまちゃんてんぐちゃん」
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○秋の自然に関わる遊びや、近隣の紅葉散歩コース、木の実を拾える場所などをクラス便りや写真の掲示で知らせ、家庭でも親子で自然に親しむことの楽しさを伝えていく。 ○朝夕の気温の変化が激しくなるので、衣服の調整やうがいなどの必要性和やり方を知らせ、家庭でも行えるようにしていく。

作って遊ぼう！

秋の自然で遊ぼう（11月）

ねらい：秋の季節を感じたり、自然物に関わって遊んだりすることを楽しむ。

大きな落ち葉を拾った子どもが、お面に見立てて遊び始める。それを見ていた他の子どもたちも木の枝やドングリ、落ち葉を拾い始める。形や大きさなど気付いたことを言い合ったり、数えたりする。集めた木の枝、ドングリ、落ち葉を使って自由に表現することを楽しむ。



【★環境構成・○保育者の援助】

- ★季節の変化が感じられるように木の葉の色の変化などに気付かせたり、戸外に誘ったりする。
- 秋の自然に触れる機会を多くもつ。
- 子どもが様々な方法で自然と関わる姿や、そこでの気づきを大切に受け止める。

経験している内容

◆健康・生活 ♥人との関わり ●学びの芽生え

- ◆しゃがむ・つまむ・両手に抱えるなど、様々な体の動きをする。



- ♥保育者や友達に自分が見つけたものを見せたり、気付いたことや集めた喜びを伝えたりする。

- ♥●友達や保育者と一緒に自然物の感触や音、色などを楽しむ。

- 木の葉の色の変化や落ち葉、風の冷たさに気付く。

作るの楽しいね！！（12月）

ねらい：身近な素材を使って手作り楽器を作り、自由に鳴らしたり音色を楽しんだりする。

床上積木を重ねて遊んでいた子どもたちが、偶然くずれた音を面白がり何度も繰り返す。そのうち積木を拍子木のように打ったり、カスタネットのようにして音を鳴らしたりすることを楽しみ始めた。そこで、保育者は「皆で太鼓を作ろうか」と提案する。ミルク缶の底を手で叩いて見せると子どもたちが「太鼓だね！」「作りたい」と興味を示してきた。好みの色で装飾をし、音楽に合わせて音を出したり踊ったりして楽しむ。

【★環境構成・○保育者の援助】

- ★必要な材料を十分に準備しておく。
- ★手順が分かりやすいように一緒に作りながら個々の様子を見て援助していく。
- 子どもの気づきに共感して、その楽しさを一緒に味わえるようにする。
- 身近な物の音に関心をもてるよう、保育者も一緒にいろいろな音を楽しんでいく。

経験している内容

◆健康・生活 ♥人との関わり ●学びの芽生え

- ◆製作を通して指先の動きを調整する。
- ◆缶太鼓の底に自分なりに分かる絵を描き、他児の物と区別する。



- ♥友達に自分の作品を見せたり、自分の物を大切にしようとしていたりする。

- ♥●友達や保育者と一緒に、音楽に合わせて太鼓を打つ。

- 身近な素材で描くことや作ることを楽しむ。
- 自分で作った太鼓の音を楽しむ。
- 様々な物の音に関心をもつ。

3歳児 V 期（1月～3月）	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○保育者や友達と同じ場で遊んだり話したりしながら、一緒に過ごす楽しさを感じる。 ○園生活に必要なことが分かり、できることを自分からしようとする。 ○進級することに憧れや期待をもち、様々な活動に進んで取り組む。
経験する内容	健康・生活 <ul style="list-style-type: none"> ・戸外に出るときは上着を着るなど、冬の生活に必要なことを知り、自分からやってみようとする。 ・自分でできる身の回りのことを丁寧に行う。（手洗い・うがい・着脱・片付けなど） ・箸の持ち方を知り、箸を使って食事をしようとする。 ・保育者や友達と一緒に体を動かすことを楽しむ。
	人との関わり <ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と一緒にルールのある遊びを楽しむ。 ・4・5歳児の遊びをまねしたり、一緒に遊んだりすることを楽しむ。 ・保育者に励まされながら様々なことに取り組み、できたことの喜びや大きくなったことを感じる。 ・保育者や友達の話に興味をもち聞こうとする。 ・生活や安全に必要な簡単な決まりが分かる。 ・日本の伝統行事を楽しむ。
	学びの芽生え <ul style="list-style-type: none"> ・生活に必要な言葉が分かり、自分なりに使おうとする。 ・冬ならではの自然に興味をもったり触れたりする。（霜柱・氷・雪など） ・花の開花や日差しなどから春の訪れを感じる。 ・絵本や紙芝居などを見たり聞いたりして、言葉の面白さに触れて楽しむ。 ・身近な素材や材料を使って、描いたり作ったりすることを楽しむ。 ・音楽やリズムに合わせて、友達と一緒に楽器遊びを楽しんだり音や体で表現を楽しむ。 ・絵本やお話のイメージを楽しみ、好きな役になりきって動くなど、自分なりの表現を楽しむ。
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ○遊びたい友達と一緒に過ごす楽しさが感じられるように、場を用意したり遊具や玩具の数を調整したりする。 ○4・5歳児と一緒に遊んだり食事をしたりする機会を設ける。 ○絵本、紙芝居、パネルシアター、エプロンシアターなど、友達と一緒に話を聞く場を多くもつ。 ○自分でできそうなこと（片付けや着替え、身の回りの始末など）に意欲をもって取り組めるよう、子どもの動線や物の配置を分かりやすく整理する。
保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のことは自分でする姿に共感し、認めたり褒めたりすることで自信がもてるようにする。 ○友達と同じ場にいる嬉しさを感じられるように、一人一人の動きを受け止めたり、楽しさに共感したりする。 ○進級への憧れや期待がある中で、安心して過ごせるように自分のしたいことやできることにじっくり取り組んだり、自分なりの思いを表すことができるように援助する。
遊び教材 絵本	<ul style="list-style-type: none"> ○お正月遊び、伝承遊び、ごっこ遊び、表現遊び、わらべうた ○簡単なルールのある遊び（絵カルタ、鬼遊びなど） ○型はめ、パズル、積木類、ブロック類、折り紙、手遊び 「おおさむこさむ」「100まんびきのねこ」「ティッチ」「はなをくんくん」 「まゆとおに」「14ひきのもちつき」
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの成長を具体的に伝え合い、喜びを共有し進級への期待や安心感につなげる。 ○自己主張や自立心が強くなるが、甘えたい気持ちも温かく受け止めるよう伝えていく。 ○身の回りのことや排便の後始末が自分でできるように具体的な助言をしながら、家庭でも取り組んでもらえるよう連携をとる。 ○排せつがしやすく、自分で着替えやすい衣類を着てくるよう依頼する。

友達と一緒に遊ぼう！

椅子取りゲームをしてみよう（1月）

ねらい：友達や保育者と、簡単なルールのある遊びを楽しむ。

保育者からルールを伝え、聞き慣れた曲に合わせて椅子の周りを歩く。曲が止まると同時に椅子に座るが、まだ空いている椅子があっても一つの椅子に集まり、「ここがいい」と席の取り合いになることもある。「こっちも空いてるよ」など声掛けをして気付くように促すと、席を譲ろうとする子も出てきた。全員で一緒に動くことを喜ぶように、歓声を上げながら歩いたり止まったりを楽しんでいた。

【★環境構成・○保育者の援助】

- ★子どもの椅子を円形に並べ、移動するときに衝突しないよう、十分なスペースを確保し間隔にゆとりをもたせる。
- 保育者が一緒に遊び、ルールを知らせたり、テンポよく楽しい雰囲気を進めたりする。
- ゲームの中でいろいろな友達の隣になったり、一緒に動いたりする楽しさを味わい、友達に親しみをもてるようにする。

経験している内容

◆健康・生活 ♥人との関わり ●学びの芽生え

◆合図をよく聞いて止まったり、他の子にぶつからないように動いたりする。

♥保育者や友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じる。



- ルールを知り、守って遊ぼうとする。
- 合図に合わせて動いたり止まったりする面白さを感じる。

レストランごっこをしよう（2月）

ねらい：自分のなりたいものになりきって遊ぶ楽しさを味わう。

友達が、家族で行ったレストランの話を保育者に話しているのを聞き、「みんなでレストランごっこしよう」と声を掛け遊び始める。他の子どもも次々に加わる。保育者がカラーボックスや布を使い、調理場やダイニングなどのスペースを作ると、お店の人やお客さんなど自分のなりたいものになり、自分なりにイメージをもって遊ぶ姿が見られた。

【★環境構成・○保育者の援助】

- ★テーブルクロスやエプロンなど必要なものは子どもの人数に合わせ、十分に用意する。
- ★興味や関心に合わせて自由に使えるよう、いろいろな用具や材料を用意しておく。
- 物事に意欲をもって取り組む気持ちを大切に、遊びのイメージや友達関係が広がるよう援助をする。

経験している内容

◆健康・生活 ♥人との関わり ●学びの芽生え

- ◆使った遊具を元にあった場所へ片付けたり、小さな紙くずを見つけて拾ったりする。
- ◆ゴミの分別に関心をもち、分けようとする。

♥●保育者や友達の楽しそうな雰囲気に関心をもち、自分から仲間に入る。



♥遊びの中で、言葉でやり取りする楽しさを味わう。

- なりたいものになったり、身近な生活体験を、自分なりに表現したりする。
- 様々な素材や用具を使って自分なりに作る。